

2015年度(平成27年度)

金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies
(Master's Level Section), Kanazawa University

学 生 募 集 要 項

(第1期募集・第2期募集)

一 般 選 抜
社 会 人 特 別 選 抜
外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜



目 次

1	人間社会環境研究科(博士前期課程)について	1
2	学生受入方針(アドミッション・ポリシー)	2
3	募集人員	6
4	出願期間	6
5	試験日時	6
6	試験場	8
7	一般選抜	8
	(1) 出願資格	8
	(2) 出願手続	9
8	社会人特別選抜	12
	(1) 出願資格	12
	(2) 出願手続	12
9	外国人留学生特別選抜	16
	(1) 出願資格	16
	(2) 出願手続	17
	(3) 奨学金について(外国人留学生対象)	20
10	選抜方法	21
	人文学専攻	21
	法学・政治学専攻	26
	経済学専攻	28
	地域創造学専攻	30
	国際学専攻	31
11	合格者発表	32
12	入学時に必要な経費	32
13	授業料の納入	32
14	修業年限	33
	(1) 標準修業年限	33
	(2) 長期履修制度	33
15	注意事項	33
16	個人情報の保護	34
17	参考資料	34
18	授業科目及び担当教員	35
	(1) 人文学専攻	35
	(2) 法学・政治学専攻	45
	(3) 経済学専攻	48
	(4) 地域創造学専攻	52
	(5) 国際学専攻	55

2015年度（平成27年度）

金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）学生募集要項

1 人間社会環境研究科（博士前期課程）について

人間社会環境研究科は2006年4月に発足しました。本研究科は、学際性・総合性を重視し、博士前期課程において3専攻を設けるとともに、社会環境科学研究科（1993年発足）という博士課程を統合して、区分制総合大学院になりました。

そして、2012年4月、博士前期課程は3専攻から5専攻に改組されました。その目的は、グローバル化、情報ネットワーク化、少子高齢化等の急速な進展に伴い、「人間」「社会」に関する既存の専門分野（人文学、法学・政治学、経済学）並びに「環境」という概念で包括される学際的な分野（地域創造学、国際学）の知見をふまえた総合的な研究・教育のニーズに応えようとするところにあります。また改組を通じて、学士課程（人文学類、法学類、経済学類、地域創造学類、国際学類）との連携及び教育・研究の継続性を明確にするるとともに、各専攻の内容をわかりやすくすることもめざしています。

人間社会環境研究科の3つの目標を述べましょう。第一に、専門的知識、方法、技術を修得し、政策立案と問題解決能力を有した高度専門職業人の育成及び自国の発展と国際交流に寄与できる人材の養成です。これは、社会が大学院教育に求める多様なニーズに対応しています。第二に、「人間社会環境」に関する教育研究拠点の形成です。それは、北陸地方はもちろん、日本全国における先駆けとしての学際・総合型の人文・社会系研究を根付かせ、発展させることを意味します。そして第三は、教育研究を通じた地域及び国際貢献であり、社会人学生と留学生の受入の積極的な推進などを通して、大学院レベルでの教育研究の成果を国内外の社会に還流させます。

以下に、専攻及びコース・プログラムの編成と授与する学位を示しますが、わたくしたちの目標は、既存の分野の学問を継承しつつ、現代的問題に的確に対処できる新たな知の営みを創造していくことです。

専攻及びコース・プログラムの編成、授与する学位

博士前期課程

専攻	コース、プログラム名	授与する学位 (修士)
人文学専攻	学際総合型プログラム（以下6プログラム） 認知科学 比較環境倫理学 ヨーロッパ・東アジア文化圏史 比較文学 ジェンダー学 文化資源学	文学 学術
	専門深化型プログラム（以下17プログラム） 哲学、心理学、社会学、地理学 日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学 日本語学日本文学、中国語学中国文学、英語学英米文学、 ドイツ語学ドイツ文学、フランス語学フランス文学、言語学 文化遺産学、比較文化学、文化人類学	
法学・政治学 専攻	基礎法学プログラム 公法学・社会法学プログラム 民事法学プログラム	法学
	政治学プログラム	政治学
経済学専攻	経済理論・政策コース 国際社会・経済コース 経営情報コース	経済学 経営学 学術

専攻	コース, プログラム名	授与する学位 (修士)
地域創造学専攻	地域創造学コース	地域創造学 学術
国際学専攻	国際関係・地域研究コース 国際関係学／アジア地域研究／米英地域研究／ヨーロッパ地域研究 日本語教育・日本文化研究コース 日本語教育学／日本語学／日本文化学	国際学 学術

2 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）

はじめに

人間社会環境研究科（博士前期課程）は、「人間」「社会」「環境」という多分野横断的な領域で活躍できる創造性豊かな人材の養成をめざします。したがって、研究科は、それぞれの学問分野における高い専門的能力を有するだけでなく、それを基礎に、学際性・総合性を生かした視点から先端的な研究をさらに進めようとする学生を求めます。

さまざまな経歴・志向を持った学生を受け入れるために、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、英語による特別選抜、そして学内推薦特別選抜と、多様な選抜方法を実施します。また、受験機会を増やすために、選抜方法によっては第1期と第2期に分けて2回の試験を行います。

一般選抜では、大学卒業後に入学を希望する学生を主な対象として、将来的に研究者を志望する者、幅広く専門的知識を修得する者や専門的職業人をめざす者、等について十分な学力と資質が備わっているか否かを判定します。社会人特別選抜では、大学卒業後、一定の年限を経過し、社会人として様々な経験と知識を蓄積してきた人を対象に、一定の学力の有無や問題意識の明確性等について判定します。そして、法学・政治学専攻、経済学専攻及び地域創造学専攻では、社会人が職業上の経験に基づく研究課題に取り組み、在学期間1年で修了することを基本とする短期在学型の志望者の選抜を行います。外国人留学生特別選抜では、様々な国からの留学希望者を対象に、一定の日本語能力および専門的学力について判定します。学内推薦特別選抜は、法学・政治学専攻及び経済学専攻において実施され、当該専攻に係わりの深い金沢大学の関係学類の学生を対象にして、その成績優良者に筆記試験を免除するものです。英語による特別選抜は、法学・政治学専攻及び国際学専攻においてのみ実施されるもので、英語により出題し英語により解答する選抜方式です。この選抜方式は、外国人留学生のみならず日本人学生をも対象にします。

人間社会環境研究科（博士前期課程）では、人文学専攻、法学・政治学専攻、経済学専攻、地域創造学専攻そして国際学専攻の5専攻の下に多様なプログラムとコースが設けられており、入試は専攻単位に実施されます。どのような教育目的・教育目標の下に、いかなる学生を受け入れようとしているのかという点については、以下に専攻別のアドミッション・ポリシーを掲げますので、ご覧下さい。

【人文学専攻】

1. 求める人材像

人文系諸領域のうちの特定期領域又は横断的新領域について、基礎知識と基礎学力を有し、かつ関連する分野について知的好奇心と一定の読書量を有する学生を求めます。研究者を目指す学生のみならず、民間企業、教員、公務員を目指す学生を歓迎します。

※本専攻では、学生の履修の道すじを“プログラム”と呼びます。プログラムには、領域横断的研究領域である「学際・総合型」と従来型研究領域である「専門深化型」の二タイプがあります。

「学際・総合型」は6プログラム、「専門深化型」は17プログラムによって構成されます。学生は入試時にこれら23のプログラムの中から1つを選択し、入試後はプログラムメニューを中心に履修します。

2. 入学に際し必要な基礎学力

入学を志す学生は、志望する専攻プログラム（専門分野）において学ぶ専門的知識の理解に必要な当該分野の基礎知識、および専門的研究を進めるために必要な基礎的技術を身につけていることが求められます。一般にそれは、志望する研究分野に関する学士課程レベルの専門知識、関連知識、研究技術です。

【法学・政治学専攻】

1. 求める人材像

法学・政治学専攻は、基礎法学、公法学・社会法学、民事法学、政治学を研究する場です。これらの学問分野の主たる特徴は、理論の探求はもちろんですが、その一方で理論と実務・現実の相互関係も重視する点にあります。現実を忘れて理論のみを追い求めることと、理論を捨てて現実に追従することは、ともに望ましくありません。このため本専攻は、これまでに確立された法学・政治学の理論をより緻密なものとし、また新たな理論を打ち立てることへの努力を惜しまぬ一方で、実社会の実状に対しても謙虚に耳を傾けることができる方々に志願していただくことを希望します。

なお、本専攻ではコースを設けていません。「プログラム」は、博士前期課程修了のために必要な授業科目・単位数を定めるものです。志願者は、希望する指導教員が担当する科目が、どのプログラムの選択必修枠に含まれているかを「授業科目及び担当教員」で確認し、入学志願票の「志願コースプログラム名」欄に、そのプログラム名を記入してください。

2. 入学に際し必要な基礎学力

法学・政治学専攻で研究を進めるために必要な基礎学力は下記の通りです。

- ・ 法学・政治学の基本的知識、またはその他の学問分野の基本的知識及び法学・政治学の基本的知識を修得する能力
- ・ 修士論文を作成するために十分な文章読解・作成能力
- ・ 研究を進める上で必要となる外国語能力
- ・ 標準修業年限以内に一定の成果をえられる研究計画を作成する能力
- ・ 研究しようとする分野における現在の研究水準や議論状況についての初歩的知識
- ・ 法学・政治学に関する議論において、他者の意見を正確に理解し、自分の意見を口頭で説得的に説明できる能力
- ・ 自発的に法学・政治学に関する課題を発見する能力及び法学・政治学が対象とする社会全般についての関心

【経済学専攻】

1. 求める人材像

経済学専攻は、地域社会や国際社会がかかえる諸問題に対し、強い問題意識を持つ人々のうち、特に経済学や経営学を中心とする領域に関心を持つ人々を求めます。本専攻は、主として経済理論や経済政策に関する問題を扱う〈経済理論・政策コース〉、主として国際的な社会問題や経済

問題を扱う〈国際社会・経済コース〉、主として経営学・会計学・情報科学等に関する問題を扱う〈経営情報コース〉という3つのコースを設けていますが、いずれのコースにおいても、それぞれの領域に関する基礎知識と基礎的分析能力を備え、理論的実証的研究能力の向上を目指す日本人学生や留学生、教員等の専門的職業人とともに、社会人としての経験に即した課題に対し経済学や経営学の知見を応用することで解決策を探ろうとする専門的職業人や実務家も大いに歓迎します。なお、コース配属は、入学後、指導教員と相談のうえ、決定します。

2. 入学に際し必要な基礎学力

大学院前期課程においては、自らの研究テーマを設定し最終的に修士論文を完成させ論文審査に合格することが最終目標になります。そのため経済学専攻では、経済（マクロ経済、ミクロ経済）や経営に関する事象を理解分析できる基礎知識と論文作成のための論理展開、文章構築能力を身につけていることが望まれます。

【地域創造学専攻】

1. 求める人材像

地域創造学専攻は、地域の特性に応じて個別的な解決を導くことができる「高度な地域創造力」を備えた専門職業人の養成を目標としています。「地域創造力」とは、①地域を感じ探求する力、②地域をマネジメントする力、③地域を持続発展させる力と定義しています。地域に暮らす人の生活の向上と社会の発展を実現させるためには、第一に地域の諸問題に強い関心を持ち、それを地域課題として捉えることが必要です。第二に人と社会と環境及びそれらを取り巻く諸問題を理解する専門的知識を有していること、また、住民の立場と社会の立場から多面的に思考できることが求められます。さらには、地域課題解決に必要な調査や分析手法を習得していることが必要です。加えて第三に、地域を持続発展的に創造するためには、何よりも地域に生活する人々の話に耳を傾け、十分な意見交換をしつつ合意を形成し、関係する諸団体・組織等と調整を図りながら協働的に取り組んでいくためのコミュニケーション能力が必要です。

本専攻が養成を目指す「高度な地域創造力」を備えた専門職業人とは、組織の一員として地域課題解決に取り組むことができるばかりでなく、リーダーシップ発揮によって組織を牽引し、地域住民の実情と意見に深く耳を傾け、また、関係諸組織・団体等と積極的に連携・協働して、想定外を含めた新たな地域課題の把握と解決に取り組み、地域の持続発展的な創造に寄与できる力量を持った人です。

学士課程教育で培った基礎的な地域創造力を伸ばし、地域社会の多様な諸問題に対応できる力を修得する意欲を持った学生の方を受け入れます。また、職場や地域社会で感じている各種の地域課題を客観的・学術的に捉え直し、専門的・学際的な知見から問題解決に役立つ知識と方法の修得を目指す社会人、日本における地域課題とその解決について学び、母国の地域創造のリーダーとして働く意欲を持った外国人留学生の方を受け入れます。

2. 入学に際し必要な基礎学力

- ・ 研究対象とする検討課題について、地域社会への高い関心と深い探究心をもって、明確に把握している。
- ・ 研究対象とする検討課題について、専門的に学修する研究分野・領域の基礎的知識を修得している。
- ・ 地域の現状を正確に把握するために必要とされる調査分析に関する基礎的な能力を身に付けている。

- ・多角的かつ批判的に物事を捉える能力を養うため、関連する多分野の文献・図書を講読し、幅広い教養を身に付けている。
- ・地域に暮らす人々を理解し、繋がり、合意形成を築くための、基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。

【国際学専攻】

1. 求める人材像

いずれのコースにおいても、国際社会の諸問題や異文化への強い関心と、実践的な外国語の運用能力を有する人を求めています。

国際関係・地域研究コースでは、外国語コミュニケーション能力をいっそう高めながら、グローバルな視野から人間と社会についての普遍的な真実を探究するとともに、激変する複雑な社会状況の下で諸国民が直面する多様な問題の解決策を考察するカリキュラムにより、国際関係業務において貢献しうる人材を養成する教育を行います。したがって、国際政治経済、比較政治、各地域の文化等の専門知識を有する人を求めています。なお、本コースでは英語による授業を中心に履修を希望する学生のために英語プログラム〈International Studies Program〉を用意しています。当プログラムは入試も英語で行います。

日本語教育・日本文化研究コースでは、英語を中心とした外国語コミュニケーション能力をいっそう高めるとともに、すでに身に付けた日本語、日本語教育、日本文化等に関する知識と教授能力をより高度化するカリキュラムを提供します。それにより、高度職業人として外国人のための日本語教育に貢献しうる人材、また国際交流分野で活躍する人材を養成する教育を行います。したがって、日本語による豊かなコミュニケーション能力を有し、日本語、日本文化およびその教授法に関する基本的知識を備えている人を求めています。日本語教師経験を有する社会人や外国人留学生も積極的に受け入れます。

2. 入学に際し必要な基礎学力

いずれのコースにおいても、修士論文執筆のための文献検索や資料収集のための基礎的能力を必要とするとともに、学部での卒業論文執筆経験を基礎とした論文執筆のための基礎学力を必要とします。

国際関係・地域研究コースでは、さらに以下のような基礎学力を必要とします。

- ・学部レベルの勉学・研究により他民族・異文化の理解のための探求、実地体験をし、国際社会の諸問題について批判に耐えうる見解を有している。
- ・国際関係業務について貢献しうる知識・能力を有している。
- ・外国人と十分な意思疎通ができる実践的な外国語の運用能力を有している。

日本語教育・日本文化研究コースでは、さらに以下のような基礎学力を必要とします。

- ・入学を希望している専門分野に応じた日本語学、日本語教育学、あるいは日本文化学の基礎的な知識を有している。
- ・日本語教育分野では、日本語教授法の知識と基本的な運用力を有している。
- ・当コースの勉学に必要なレベルの英語力を有するとともに、外国人留学生については、日本語能力試験N1(旧1級)合格レベルの日本語力を有している。

3 募集人員

専攻名	第1期募集	第2期募集	計
人文学専攻	10名	13名	23名
法学・政治学専攻	4名	4名	8名
経済学専攻	4名	4名	8名
地域創造学専攻	4名	4名	8名
国際学専攻	4名	4名	8名
合計	26名	29名	55名

【注】 1 募集人員には、「一般選抜」、「社会人特別選抜」、「外国人留学生特別選抜」の他、別
に実施される「英語による特別選抜」、「学内推薦特別選抜」の募集人員（それぞれ若
干名）を含みます。

2 法学・政治学専攻、経済学専攻、地域創造学専攻の募集人員には、別の実施される
短期（1年）在学型選抜の募集人員（若干名）を含みます。

4 出願期間

区分	期間	備考
第1期募集	2014年(平成26年)6月12日(木)～6月19日(木)	毎日9時から17時まで ただし、土曜日及び日曜日を 除きます。
第2期募集	2015年(平成27年)1月19日(月)～1月23日(金)	

【注】 郵送による場合も期限内に必着とします。

5 試験日時

(1) 第1期募集

人文学専攻

試験科目	年月日	時間
筆記試験 専門科目	2014年(平成26年)7月21日(月)	10:00～13:00
		14:00～15:00
外国語科目		※1 14:00～ ※2 15:15～
口述試験		

※1 外国語試験を課さないプログラム ※2 外国語試験を課すプログラム

法学・政治学専攻

試験科目	年月日	時間
筆記試験 専門科目	2014年(平成26年)7月21日(月)	10:00～12:00
		13:30～15:00
外国語科目		
口述試験		15:30～

経済学専攻

試験科目	年月日	時間
筆記試験 専門科目	2014年(平成26年)7月21日(月)	10:00～12:00
		13:30～
口述試験		

地域創造学専攻

試験科目		年 月 日	時 間
筆記試験	専門科目	2014年(平成26年)7月21日(月)	10:00~12:00
口述試験			13:30~

国際学専攻

試験科目		年 月 日	時 間
筆記試験	専門科目	2014年(平成26年)7月21日(月)	10:00~13:00
口述試験			14:30~

(2) 第2期募集

人文学専攻

試験科目		年 月 日	時 間
筆記試験	専門科目	2015年(平成27年)2月13日(金)	10:00~13:00
口述試験			14:30~

法学・政治学専攻

試験科目		年 月 日	時 間
筆記試験	専門科目	2015年(平成27年)2月13日(金)	10:00~12:00
口述試験			13:30~

経済学専攻

試験科目		年 月 日	時 間
筆記試験	専門科目	2015年(平成27年)2月13日(金)	10:00~12:00
口述試験			13:30~

地域創造学専攻

試験科目		年 月 日	時 間
筆記試験	専門科目	2015年(平成27年)2月13日(金)	10:00~12:00
口述試験			13:30~

国際学専攻

試験科目		年 月 日	時 間
筆記試験	専門科目	2015年(平成27年)2月13日(金)	10:00~13:00
口述試験			14:30~

6 試験場

金沢大学大学院人間社会環境研究科（人間社会第1及び第2講義棟他）
（裏表紙の入学試験場案内略図を参照してください。）

7 一般選抜

(1) 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- ① 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に定める大学を卒業した者及び2015年(平成27年)3月31日までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び2015年(平成27年)3月31日までに授与される見込みの者
- ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2015年(平成27年)3月31日までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2015年(平成27年)3月31日までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2015年(平成27年)3月31日までに修了見込みの者
- ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者
- ⑧ 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- ⑨ 2015年(平成27年)3月31日までに学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学における15年の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者
- ⑩ 本研究科において、個別の入学資格審査により、出願資格①に定める者と同等以上の学力があると認められた者で、2015年(平成27年)3月31日までに22歳に達する者

(出願資格事前審査)

上記の出願資格⑧・⑨・⑩により出願しようとする者は、出願前に個別に出願資格審査を行いますので、第1期募集については2014年(平成26年)6月5日(木)までに、第2期募集については2014年(平成26年)12月1日(月)までに、次の書類を金沢大学人間社会系事務部学生課学務係へ提出してください。

なお、郵送の場合は封筒の表に「人間社会環境研究科(博士前期課程)出願資格事前審査申請書在中」と朱書きしてください。

ア 出願資格事前審査申請書（本研究科所定用紙）

- イ 最終学校の卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書
- ウ 最終学校の成績証明書
- エ 最終学校の教育課程表及びシラバス又はこれに相当するものの写し
- オ 志望理由書（様式随意，800字程度）
- カ 研究業績調書（本研究科所定用紙）
- キ 実務経験や研究活動の内容を表す書面（様式随意，著書・論文・推薦書等）
- ク 返信用封筒（定形の封筒に受信場所・氏名を明記し，792円分（書留速達）の切手を貼付してください。）

- 【注】 1 審査結果は，第1期募集については2014年(平成26年)6月中旬に，第2期募集については2014年(平成26年)12月中に通知します。提出された書類は返却しません。
- 2 外国の学校及び機関等の証明書等には，その和訳及び説明書を添付してください。

(2) 出願手続

- ① 入学志願者は，次ページ以下に掲載されている書類を一括して提出してください。
- ② 出願書類を郵送するときは，「書留」とし，封筒の表に「人間社会環境研究科（博士前期課程）○○○専攻入学願書在中」と朱書きしてください。
- ③ 出願書類提出先
〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学人間社会系事務部学生課学務係
- ④ 出願書類に不備がある場合は受理しません。

一般選抜

提出書類		摘要
1	入学志願票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入してください。 なお、確認用チェックボックス用紙もあわせて記載の上、提出してください。
2	受験票・写真票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入し、同一の写真2枚（出願前3か月以内に、上半身、脱帽、正面向き、無背景で撮影したもの、縦4cm×横3cm）をそれぞれ所定の欄に貼付してください。
3	卒業(見込)証明書	本研究科への出願資格を満たす大学の卒業（見込）証明書を提出してください。 外国の大学の場合は、大学が発行する英語による卒業（見込）証明書を提出してください。 大学評価・学位授与機構で出願資格を得る者は、学位授与証明書（学位授与申請受理証明書）等学位取得に係る証明書すべてを提出してください。
4	成績証明書	本研究科への出願資格を満たす大学の成績証明書を提出してください。 外国の大学の場合は、大学が発行する英語による成績証明書を提出してください。 大学に編入学した者は、短期大学又は高等専門学校等の成績証明書もあわせて提出してください。 法学・政治学専攻（政治学プログラムを除く）の志願者は、日弁連法務研究財団主催の法学既修者試験の成績証明書または法学検定試験2級の成績通知書のコピーを提出できます（提出は任意です。口述試験で参考にします）。
5	外国語試験の証明書	<p>* 法学・政治学専攻の志願者は、以下のいずれかの証明書のコピーを提出してください。また、コピーの原本は、筆記試験の当日に必ず持参してください。なお、第1期募集についてのみ、証明書のコピーを提出しない場合には、筆記試験において専門科目（1科目）の他に外国語科目（英、独または仏）を課します。</p> <p>TOEIC Test 600, TOEFL-iBT 61もしくはIELTS 5.5以上のスコアの公式の証明書、または実用英語技能検定(英検)準1級、ドイツ語技能検定試験(独検)3級、実用フランス語技能検定試験(仏検)3級、中国語検定試験3級もしくはハングル能力検定試験3級以上の級の合格証明書。</p> <p>証明書の取得時期は問いません。ただし、TOEIC-IP（団体特別受験制度）・TOEFL-ITP（団体向けTOEFLテストプログラム）の成績証明書は使用できません。</p> <p>* 経済学専攻の志願者は、以下の証明書のコピーを提出してください。コピーの原本は、試験日当日に必ず持参してください。</p> <p>「TOEICテストのスコアの公式の証明書(出願期間最終日から起算して2年以内に実施されたもの)」</p> <p>ただし、TOEIC-IP（団体特別受験制度）の成績証明書は使用できません。</p> <p>* 国際学専攻国際関係・地域研究コースの志願者はTOEIC Test, TOEFL-iBT もしくはIELTS のスコアの公式の証明書、第1期募集の日本語教育・日本文化研究コースの志願者は、TOEIC Test, TOEFL-iBT もしくはIELTS のスコアの公式の証明書、または実用英語技能検定(英検)の証明書のコピーを提出してください。</p>
6	研究計画書	本研究科所定の用紙に、入学後の研究テーマ、これまでの研究分野、志望の動機、今後の研究計画について、具体的に作成してください。

提出書類		摘要
7	入学検定料振込金 証明書	<p>入学検定料30,000円を銀行振込「電信扱」で納入してください。</p> <p>本要項に添付の振込依頼書に必要事項を記入の上、「電信扱」を取り扱う銀行、信用金庫、信用組合、農協、漁協等の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を除く）の窓口で納入してください。</p> <p>振込手数料は、志願者負担となります。（本学指定金融機関である「北陸銀行本支店」からの振り込みに限り振込手数料は不要です。）</p> <p>納入後、「振込金証明書」に銀行領収印が押してあることを確認してください。領収書は大切に保管してください。</p> <p>ATM（現金自動預払機）、携帯電話、パソコン等からは振り込まないでください。</p> <p>出願書類受理後は、どのような事情があっても入学検定料の返還はしませんので、注意してください。</p>
8	住所票	<p>本研究科所定の用紙に受信場所、氏名を記入し、郵便切手362円（速達）を貼付してください。</p>
9	卒業論文	<p>* 次の専攻の志願者のみ提出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人文学専攻の第2期募集の志願者 • 国際学専攻の第1期募集の既卒志願者と第2期募集の志願者 <p>卒業論文（写しでも可）又はそれに代わる研究論文もしくはレポート（2,000字以上*、ただし欧文の場合は500語以上）を1部提出してください。（入学後の研究テーマに即した専門知識、研究能力の有無が判断できるものが望ましい）</p> <p>* 国際学専攻では字数制限はありません。</p>
10	在留カードの写し 又は外国人登録証明書の写し及びパスポートの写し (外国人留学生のみ)	<p>出願書類には、この証明書等に記載の氏名を使用してください。</p> <p>日本に在留している外国人は、在留カード（表・裏）の写し又は外国人登録証明書（表・裏）の写し及びパスポート（国籍、氏名、性別、生年月日、在留資格が記載されたページ）の写しを提出してください。</p> <p>日本に在留していない外国人は、パスポートの写しのみを提出してください。</p>

8 社会人特別選抜

(1) 出願資格

2015年(平成27年)3月31日までに通算3年以上の社会経験を有する者で、次の各号のいずれかに該当するもの

- ① 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に定める大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑥ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者
- ⑧ 本研究科において、個別の入学資格審査により、出願資格①に定める者と同等以上の学力があると認められた者で、2015年(平成27年)3月31日までに22歳に達する者

(出願資格事前審査)

上記の出願資格⑧により出願しようとする者は、出願前に個別に出願資格審査を行いますので、第1期募集については2014年(平成26年)6月5日(木)までに、第2期募集については2014年(平成26年)12月1日(月)までに、次の書類を金沢大学人間社会系事務部学生課学務係へ提出してください。

なお、郵送の場合は封筒の表に「人間社会環境研究科(博士前期課程)出願資格事前審査申請書在中」と朱書きしてください。

- ア 出願資格事前審査申請書(本研究科所定用紙)
- イ 最終学校の卒業(修了)証明書
- ウ 最終学校の成績証明書
- エ 最終学校の教育課程表及びシラバス又はこれに相当するものの写し
- オ 志望理由書(様式随意, 800字程度)
- カ 研究業績調書(本研究科所定用紙)
- キ 実務経験や研究活動の内容を表す書面(様式随意, 著書・論文・推薦書等)
- ク 返信用封筒(定形の封筒に受信場所・氏名を明記し, 792円分(書留速達)の切手を貼付してください。)

- 【注】 1 審査結果は、第1期募集については2014年(平成26年)6月中旬に、第2期募集については2014年(平成26年)12月中に通知します。提出された書類は返却しません。
- 2 外国の学校及び機関等の証明書等には、その和訳及び説明書を添付してください。

(2) 出願手続

- ① 入学志願者は、14, 15ページに掲載されている書類を一括して提出してください。
- ② 出願書類を郵送するときは、「書留」とし、封筒の表に「人間社会環境研究科(博士前期課程)〇〇〇専攻入学願書在中」と朱書きしてください。

③ 出願書類提出先

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学人間社会系事務部学生課学務係

④ 出願書類に不備がある場合は受理しません。

【注】法学・政治学専攻，経済学専攻，地域創造学専攻の短期（1年）在学型選抜については，本要項とは別に学生募集要項を作成しています。必要な方は34ページの注意事項⑥を参照の上，入手してください。（封筒の表に「人間社会環境研究科〇〇〇専攻短期（1年）在学型選抜募集要項請求」と明記してください。）

社会人特別選抜

提出書類		摘 要
1	入学志願票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入してください。 なお、確認用チェックボックス用紙もあわせて記載の上、提出してください。
2	受験票・写真票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入し、同一の写真2枚（出願前3か月以内に、上半身、脱帽、正面向き、無背景で撮影したもの、縦4cm×横3cm）をそれぞれ所定の欄に貼付してください。
3	卒業証明書	本研究科への出願資格を満たす大学の卒業証明書を提出してください。 外国の大学の場合は、大学が発行する英語による卒業証明書を提出してください。 大学評価・学位授与機構で出願資格を得る者は、学位授与証明書（学位授与申請受理証明書）等学位取得に係る証明書すべてを提出してください。
4	成績証明書	本研究科への出願資格を満たす大学の成績証明書を提出してください。 外国の大学の場合は、大学が発行する英語による成績証明書を提出してください。 大学に編入学した者は、短期大学又は高等専門学校等の成績証明書もあわせて提出してください。
5	外国語試験の証明書	* 国際学専攻国際関係・地域研究コースの志願者はTOEIC Test , TOEFL-iBT もしくはIELTS のスコアの公式の証明書, 第1期募集の日本語教育・日本文化研究コースの志願者は, TOEIC Test , TOEFL-iBT もしくはIELTS のスコアの公式の証明書, または実用英語技能検定(英検)の証明書のコピーを提出して下さい。
6	研究計画書	本研究科所定の用紙に、入学後の研究テーマ、これまでの研究分野、志望の動機、今後の研究計画について、具体的に作成してください。
7	入学検定料振込金証明書	入学検定料30,000円を銀行振込「電信扱」で納入してください。 本要項に添付の振込依頼書に必要事項を記入の上、「電信扱」を取り扱う銀行、信用金庫、信用組合、農協、漁協等の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を除く）の窓口で納入してください。 振込手数料は、志願者負担となります。（本学指定金融機関である「北陸銀行本支店」からの振り込みに限り振込手数料は不要です。） 納入後、「振込金証明書」に銀行領収印が押してあることを確認してください。領収書は大切に保管してください。 ATM（現金自動預払機）、携帯電話、パソコン等からは振り込まないでください。 出願書類受理後は、どのような事情があっても入学検定料の返還はしませんので、注意してください。
8	住所票	本研究科所定の用紙に受信場所、氏名を記入し、郵便切手362円（速達）を貼付してください。
9	研究経過・実績書	* 人文学専攻・経済学専攻の志願者のみ提出してください。 4,000字程度、A4版、様式随意 研究しようとする分野・テーマについてこれまでどんなことを学習してきたのか、また入学後どのような研究を計画しており、それに関連する先行研究等にどの程度アプローチしてきたのかを日本語で明確に記入してください。 この他に、参考資料として、これまでの研究業績等（公表、未公表を問わない）の提出を認めます。

提出書類		摘 要
10	卒業論文	<p>* 国際学専攻の第1期募集の既卒志願者と第2期募集の志願者のみ提出してください。</p> <p>卒業論文（写しでも可）又はそれに代わる研究論文もしくはレポートを1部提出してください。（入学後の研究テーマに即した専門知識，研究能力の有無が判断できるものが望ましい）</p> <p>* 特に字数制限はありません。</p>
11	在留カードの写し 又は外国人登録証明書の写し及び パスポートの写し	<p>出願書類には，この証明書等に記載の氏名を使用してください。</p> <p>日本に在留している外国人は，在留カード（表・裏）の写し又は外国人登録証明書（表・裏）の写し及びパスポート（国籍，氏名，性別，生年月日，在留資格が記載されたページ）の写しを提出してください。</p> <p>日本に在留していない外国人は，パスポートの写しのみを提出してください。</p>

9 外国人留学生特別選抜

(1) 出願資格

日本の国籍を有しない者で、次の各号のいずれかに該当する者

- ① 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に定める大学を卒業した者及び2015年(平成27年)3月31日までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び2015年(平成27年)3月31日までに授与される見込みの者
- ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2015年(平成27年)3月31日までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2015年(平成27年)3月31日までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2015年(平成27年)3月31日までに修了見込みの者
- ⑥ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者
- ⑧ 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- ⑨ 2015年(平成27年)3月31日までに学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学における15年の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者
- ⑩ 本研究科において、個別の入学資格審査により、出願資格①に定める者と同等以上の学力があると認めた者で、2015年(平成27年)3月31日までに22歳に達する者

(出願資格事前審査)

上記の出願資格⑧・⑨・⑩により出願しようとする者は、出願前に個別に出願資格審査を行いますので、第1期募集については2014年(平成26年)6月5日(木)までに、第2期募集については2014年(平成26年)12月1日(月)までに、次の書類を金沢大学人間社会系事務部学生課学務係へ提出してください。

なお、郵送の場合は封筒の表に「人間社会環境研究科(博士前期課程)出願資格事前審査申請書在中」と朱書きしてください。

- ア 出願資格事前審査申請書(本研究科所定用紙)
- イ 最終学校の卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書
- ウ 最終学校の成績証明書
- エ 最終学校の教育課程表及びシラバス又はこれに相当するものの写し
- オ 志望理由書(様式随意、日本語で800字程度)
- カ 研究業績調書(本研究科所定用紙)

- キ 実務経験や研究活動の内容を表す書面（様式随意，著書・論文・推薦書等）
- ク 返信用封筒（定形の封筒に受信場所・氏名を明記し，792円分（書留速達）の切手を貼付してください。）

- 【注】 1 審査結果は，第1期募集については2014年（平成26年）6月中旬に，第2期募集については2014年（平成26年）12月中に通知します。提出された書類は返却しません。
- 2 外国の学校及び機関等の証明書等には，その和訳及び説明書を添付してください。

(2) 出願手続

- ① 入学志願者は，次ページ以下に掲載されている書類を一括して提出してください。
- ② 出願書類を郵送するときは，「書留」とし，封筒の表に「人間社会環境研究科（博士前期課程）〇〇〇専攻入学願書在中」と朱書きしてください。
- ③ 出願書類提出先
〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学人間社会系事務部学生課学務係
- ④ 出願書類に不備がある場合は受理しません。

外国人留学生特別選抜

提出書類		摘 要
1	入学志願票	本研究科所定の用紙に必要事項を日本語で記入してください。 なお、確認用チェックボックス用紙もあわせて記載の上、提出してください。
2	受験票・写真票	本研究科所定の用紙に日本語で必要事項を記入し、同一の写真2枚（出願前3か月以内に、上半身、脱帽、正面向き、無背景で撮影したもの、縦4cm×横3cm）をそれぞれ所定の欄に貼付してください。
3	卒業(見込)証明書	本研究科への出願資格を満たす大学の卒業（見込）証明書を提出してください。 外国の大学の場合は、大学が発行する英語による卒業（見込）証明書を提出してください。 大学評価・学位授与機構で出願資格を得る者は、学位授与証明書（学位授与申請受理証明書）等学位取得に係る証明書すべてを提出してください。
4	成績証明書	本研究科への出願資格を満たす大学の成績証明書を提出してください。 外国の大学の場合は、大学が発行する英語による成績証明書を提出してください。 大学に編入学した者は、短期大学又は高等専門学校等の成績証明書もあわせて提出してください。
5	外国語試験の証明書	*国際学専攻国際関係・地域研究コースの志願者はTOEIC Test , TOEFL-iBT もしくはIELTS のスコアの公式の証明書を提出して下さい。
6	研究計画書	本研究科所定の用紙に、入学後の研究テーマ、これまでの研究分野、志望の動機、今後の研究計画について、日本語で具体的に作成してください。
7	入学検定料振込金証明書	<p>入学検定料30,000円を銀行振込「電信扱」で納入してください。</p> <p>本要項に添付の振込依頼書に必要事項を記入の上、「電信扱」を取り扱う銀行、信用金庫、信用組合、農協、漁協等の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を除く）の窓口で納入してください。</p> <p>振込手数料は、志願者負担となります。（本学指定金融機関である「北陸銀行本支店」からの振り込みに限り振込手数料は不要です。）</p> <p>納入後、「振込金証明書」に銀行領収印が押してあることを確認してください。領収書は大切に保管してください。</p> <p>ATM（現金自動預払機）、携帯電話、パソコン等からは振り込まないでください。</p> <p>出願書類受理後は、どのような事情があっても入学検定料の返還はしませんので、注意してください。</p> <p>なお、国費外国人留学生は、入学検定料を納入する必要はありません。</p> <p>また、海外から送金する場合は、次の点に注意してください。</p> <p>① <u>まず、海外送金することについて、巻末の各専攻担当の問い合わせ先に余裕をもって事前相談してください。</u></p> <p>② 送金から着金までに時間がかかるので、早めの手続きをしてください。</p> <p>③ 送金先の銀行口座は限定しています。銀行名、口座番号等に関しては①の事前相談で確認してください。</p> <p>④ 送金は、日本円をお願いします。</p> <p>⑤ 送金手数料は、依頼人（送金側）の負担です。</p> <p>⑥ 送金の手続きを取る際は、巻末の各専攻担当の問い合わせ先に連絡を取り、次のことを確実に伝えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたのお名前 ・送金手続する日にち ・送金手続する海外の銀行・支店名 ・入学検定料の送金であることと ・送金額が30,000円であること <p>⑦ 中国からの送金の場合は、中国銀行（Bank of China）で送金手続すると、入金確認が早くできます。</p>

提出書類		摘要
8	住所票	本研究科所定の用紙に日本語で受信場所、氏名を記入し、郵便切手、362円（速達）を貼付してください。
9	卒業論文	<p>* 人文学専攻・国際学専攻の第1期募集の既卒志願者と第2期募集の志願者のみ提出してください。</p> <p>卒業論文（写しでも可）又はそれに代わる研究論文もしくはレポートを1部提出してください。（入学後の研究テーマに即した専門知識、研究能力の有無が判断できるものが望ましい）</p> <p>* 特に字数制限はありません。</p>
10	在留カードの写し又は外国人登録証明書の写し及びパスポートの写し	<p>出願書類には、この証明書等に記載の氏名を使用してください。</p> <p>日本に在留している外国人は、在留カード（表・裏）の写し又は外国人登録証明書（表・裏）の写し及びパスポート（国籍、氏名、性別、生年月日、在留資格が記載されたページ）の写しを提出してください。</p> <p>日本に在留していない外国人は、パスポートの写しのみを提出してください。</p>
11	修業年限中の学費等の支払を保証する証明書	<p>本人名義の預金残高証明書（USドル又は日本円）又は奨学金支給証明書（財団、政府、民間企業等）等を提出してください。本人以外が学費を支払う場合は、学費支払者による自筆の学費支払証明書及び預金残高証明書を提出してください。日本語及び英語以外の言語による場合は、日本語又は英語の訳文を添付してください。</p>

(3) 奨学金について（外国人留学生対象）

金沢大学独自の奨学金制度

金沢大学は外国人留学生を対象として、以下の2つの奨学金制度を設けています。

応募者を選考の上、受給者を決定します。

金沢大学学生特別支援制度外国人留学生修学支援奨学金	
申請条件	過去に本学に短期留学していた外国人留学生で、再び本学の正規生として入学した者
奨学金金額	最高25万円（年額）
奨学金支給期間	在籍期間中1回限り

金沢大学創基150年記念留学生支援奨学金私費外国人留学生学習奨励費	
申請条件	本学に半期以上在籍する予定の私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れている者
奨学金金額	18万円（年額）※半期ごとに9万円給付
奨学金支給期間	課程修了まで（留年期間は除く）

詳しくは以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ie/j/abroad/scholarship.html>

Scholarship programs by Kanazawa University

Kanazawa University disburses following 2 scholarships.

Kanazawa University screens applicants and select scholars.

Start-up Scholarship of Acanthus Support System	
Eligibility	Past participants of short-term study at Kanazawa University who enter the university again as degree students.
Grant amount	Maximum 250,000 yen.
Award payment duration	Grant shall be given one time during enrollment period.

[Kanazawa University Foundation] 150th Foundation Anniversary Study Grant for Privately Financed International Student	
Eligibility	Privately financed foreign students who enroll at Kanazawa University more than one semester and are excellent in both academics and personality.
Grant amount	(1)180,000 yen per year or 90,000 yen per semester.
Award payment duration	During enrollment period.

For more information, please refer to the following website.

<http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ie/e/abroad/scholarship.html>

10 選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験、研究計画書及び出身大学の成績等を総合して行います。専攻ごとの選抜方法は以下のとおりです。

人文学専攻

◆学際総合型プログラム

i) 《一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜》【第1期募集】【第2期募集】共通

プログラム名	筆 記 試 験		口述試験
	外国語科目	専門科目	
認 知 科 学		別表1-①から入学後専攻しようとする1科目を選択	提出した研究計画書及び受験した専門科目を中心に行います。
比較環境倫理学			
ヨーロッパ・東アジア文化圏史			
比較文学			
ジェンダー学			
文化資源学			

別表1-①

専門科目	備 考
認知科学	共通問題と選択問題によって構成されます。英語の文献読解能力に関する問題を含むことがあります。共通問題は、認知科学に関する概論的な問題で、全受験者必須です。選択問題は、「認知心理学」「認知哲学」「認知言語学」の各分野各1題、計3題の中から2題を選択します。
比較環境倫理学	共通問題と選択問題によって構成されます。共通問題は、「比較思想に関する概説的小論文問題」及び「比較思想に関する英文読解(辞書等を貸与する場合があります)」です。いずれも必須です。選択問題は「西洋思想」及び「日本思想」の各分野(各1題出題)から1題選択をします。
ヨーロッパ・東アジア文化圏史	選択問題によって構成されます。「日本史学」「東洋史学」「西洋史学」の各分野のうち、2分野の問題(史料や外国語文献の読解を含むことがあります)から2題を選択します。
比較文学	共通問題と選択問題によって構成されます。共通問題は比較文学に関する概説的な小論文問題で、全受験生必須です。選択問題は、「日本語学日本文学」、「英語学英米文学」、「中国語学中国文学」、「フランス語学フランス文学」、「ドイツ語学ドイツ文学」の各分野各1題、計5題の中から2題を選択します。
ジェンダー学	共通問題と選択問題によって構成されます。共通問題はジェンダー学に関する概説的な問題で英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。全受験生必須です。選択問題は「文学・文化的アプローチ」と「社会科学的アプローチ」から各1題、計2題の中から1題を選択します。
文化資源学	選択問題によって構成されます。「文化遺産学」、「比較文化学」、「文化人類学」の各分野各2題、計6題の中から3題を選択します。

◆専門深化型プログラム

i) 《一般選抜》【第1期募集】

プログラム名	筆記試験		口述試験
	外国語科目	専門科目	
哲学		別表1-②から入学後専攻しようとする1科目を選択	提出された研究計画書及び受験した専門科目を中心にを行います。
心理学			
社会学			
地理学			
日本史学			
東洋史学			
西洋史学			
考古学			
日本語学 日本文学	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語のうち1科目選択		
中国語学 中国文学	英語, ドイツ語, フランス語のうち1科目選択		
英語学 英米文学	ドイツ語, フランス語のうち1科目選択		
ドイツ語学 ドイツ文学	英語, フランス語のうち1科目選択		
フランス語学 フランス文学	英語, ドイツ語, 中国語のうち1科目選択		
言語学	英語		
文化遺産学			
比較文化学			
文化人類学			

別表1-②

専門科目	備考
哲学	英語文献および外国語文献(英語, ドイツ語, フランス語から1か国語を選択)の読解問題を含みます。辞書類を貸与する場合があります。
心理学	英語文献読解問題を含みます。
社会学	英語文献読解問題を含みます。
地理学	英語文献読解問題を含みます。辞書類を貸与する場合があります。
日本史学	英語文献読解問題を出題することがあります。関係史料の読解を含みます。
東洋史学	研究を進める上で必要となる外国語文献及び関係史料の読解問題を含みます。
西洋史学	
考古学	英語文献読解問題を含みます。
日本語学日本文学	「日本古典文学」, 「日本近代文学」, 「日本語学」の3分野より2分野の問題を選択させます。
中国語学中国文学	
英語学英米文学	
ドイツ語学ドイツ文学	「ドイツ語読解力」, 「ドイツ語表現力」, 「ドイツ語学」, 「ドイツ文学」の4分野について出題します。「ドイツ語学」, 「ドイツ文学」については, そのうち1分野を選択します。
フランス語学フランス文学	
言語学	ドイツ語またはフランス語(1言語選択)の文献読解を含みます。独和辞典, 仏和辞典を貸与します。
文化遺産学	英語文献読解問題を含みます。
比較文化学	英語文献読解問題を含みます。
文化人類学	英語文献読解問題を含みます。

ii) 《一般選抜》【第2期募集】

プログラム名	筆記試験		口述試験
	外国語科目	専門科目	
哲学		別表1-③から入学後専攻しようとする1科目を選択	① 提出された卒業論文又はそれに代わる研究論文若しくはレポート ② 提出された研究計画書 ③ 受験した専門科目 以上を中心に行います。
心理学			
社会学			
地理学			
日本史学			
東洋史学			
西洋史学			
考古学			
日本語学			
日本文学			
中国語学			
中国文学			
英語学			
英米文学			
ドイツ語学			
ドイツ文学			
フランス語学			
フランス文学			
言語学			
文化遺産学			
比較文化学			
文化人類学			

別表1-③

専門科目	備考
哲学	英語文献および外国語文献（英語、ドイツ語、フランス語から1か国語を選択）の読解問題を含みます。辞書類を貸与する場合があります。
心理学	英語の文献読解力に関する問題を含みます。
社会学	英語の文献読解力に関する問題を含みます。
地理学	英語の文献読解力に関する問題を含みます。辞書類を貸与する場合があります。
日本史学	関係史料の読解を含みます。
東洋史学	研究を進める上で必要となる外国語文献及び関係史料の読解問題を含みます。
西洋史学	
考古学	英語の文献読解力に関する問題を含みます。
日本語学日本文学	「日本古典文学」、「日本近代文学」、「日本語学」の3分野より2分野の問題を選択させます。
中国語学中国文学	
英語学英米文学	
ドイツ語学ドイツ文学	「ドイツ語読解力」、「ドイツ語表現力」、「ドイツ語学」、「ドイツ文学」の4分野について出題します。「ドイツ語学」、「ドイツ文学」については、そのうち1分野を選択します。
フランス語学フランス文学	
言語学	英語の文献読解およびドイツ語、フランス語のうち1言語の文献読解を含みます。独和辞典、仏和辞典を貸与します。
文化遺産学	英語文献読解問題を含みます。
比較文化学	英語文献読解問題を含みます。
文化人類学	英語文献読解問題を含みます。

iii) 《社会人特別選抜》【第1期募集】【第2期募集】共通

プログラム名	筆記試験		口述試験
	外国語科目	専門科目	
哲学		別表1-④から入学後専攻しようとする1科目を選択	提出された研究計画書及び受験した専門科目を中心にを行います。
心理学			
社会学			
地理学			
日本史学			
東洋史学			
西洋史学			
考古学			
日本語学			
日本文学			
中国語学			
中国文学			
英語学			
英米文学			
ドイツ語学			
ドイツ文学			
フランス語学			
フランス文学			
言語学			
文化遺産学			
比較文化学			
文化人類学			

別表1-④

専門科目	備考
哲学	外国語の文献読解力に関する問題を含むことがあります(英語, ドイツ語, フランス語から1か国語を選択)。辞書類を貸与する場合があります。
心理学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
社会学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
地理学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。辞書類を貸与する場合があります。
日本史学	関係史料の読解を含みます。
東洋史学	研究を進める上で必要となる外国語文献及び関係史料の読解力を問うことがあります。
西洋史学	
考古学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
日本語学日本文学	「日本古典文学」, 「日本近代文学」, 「日本語学」の3分野より2分野の問題を選択させます。
中国語学中国文学	
英語学英米文学	
ドイツ語学ドイツ文学	「ドイツ語読解力」, 「ドイツ語表現力」, 「ドイツ語学」, 「ドイツ文学」の4分野について出題します。「ドイツ語学」, 「ドイツ文学」については, そのうち1分野を選択します。
フランス語学フランス文学	
言語学	英語の文献読解を含みます。
文化遺産学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
比較文化学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
文化人類学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。

iv) 《外国人留学生特別選抜》【第1期募集】【第2期募集】共通

プログラム名	筆記試験		口述試験
	外国語科目	専門科目	
哲学		別表1-⑤から入学後専攻しようとする1科目を選択	提出された研究計画書及び受験した専門科目を中心にを行います。
心理学			
社会学			
地理学			
日本史学			
東洋史学			
西洋史学			
考古学			
日本語学			
日本文学			
中国語学			
中国文学			
英語学			
英米文学			
ドイツ語学			
ドイツ文学			
フランス語学			
フランス文学			
言語学			
文化遺産学			
比較文化学			
文化人類学			

別表1-⑤

専門科目	備 考
哲学	外国語の文献読解力に関する問題を含むことがあります(英語, ドイツ語, フランス語から1か国語を選択)。辞書類を貸与する場合があります。
心理学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
社会学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
地理学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。辞書類を貸与する場合があります。
日本史学	
東洋史学	研究を進める上で必要となる外国語文献及び関係史料の読解力を問うことがあります。
西洋史学	
考古学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
日本語学日本文学	「日本古典文学」, 「日本近代文学」, 「日本語学」の3分野より2分野の問題を選択させます。
中国語学中国文学	
英語学英米文学	
ドイツ語学ドイツ文学	「ドイツ語読解力」, 「ドイツ語表現力」, 「ドイツ語学」, 「ドイツ文学」の4分野について出題します。「ドイツ語学」, 「ドイツ文学」については, そのうち1分野を選択します。
フランス語学フランス文学	
言語学	英語の文献読解を含みます。
文化遺産学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
比較文化学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。
文化人類学	英語の文献読解力に関する問題を含むことがあります。

法学・政治学専攻

i) 《一般選抜》【第1期募集】【第2期募集】共通

プログラム名	筆記試験	口述試験
基礎法学プログラム 公法学・社会法学プログラム 民事法学プログラム 政治学プログラム	専門科目については、別表2-①から入学後専攻しようとする1科目（第1希望の指導教員の科目）を選択。 第1期募集の外国語科目については、別表2-②から1科目を選択。ただし、第2期募集の外国語科目については、別表（募集要項9頁）に定める外国語試験における所定の水準以上の成績を証明する書類を提出すること。	提出された研究計画書及び受験した専門科目を中心に行ないます。

別表2-①

専門科目	備考
法理学1	法理学の基本的な論点を中心に出题します。おおむね、深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）第2部の内容に関連した出題となります。
法理学2（法論理学）	命題論理、述語論理、様相論理（義務論理を含む）の基本的知識を問います。
日本法制史	日本法制史に関する基本的な知識を問います。 おおむね浅古・伊藤・植田・神保編『日本法制史』（青林書院、2010年）の内容に即して出題します。
西洋法制史	ドイツ中世法制史・国制史の基本的な事項やテーマに関する問題を出题します。
東洋法制史	東洋法制史の基本的な論点を中心に出题します。おおむね、石岡・川村・七野・中村『史料からみる中国法史』（法律文化社、2012年）の内容に関連した出題となります。
外国法	主としてアメリカ法分野から出題します。
法思想史	竹下賢・平野敏彦・角田猛之編著『トピック法思想』（法律文化社、2000年）[トピック生命]「性と死をめぐる法思想」の内容に関連した出題となります。
憲法*	日本国憲法に関する体系的知識を問う論述問題を2題出題します。具体的には、憲法の基礎理論（憲法の意義、国民主権、権力分立、法の支配、平和主義など）、人権総論（享有主体、私人間効力など）、人権各論（個別の人権の保護範囲、人権制約の正当化など）、統治機構各論（議会制、内閣制、司法審査制、地方自治制など）が出題範囲となります。
行政法*	いわゆる行政法総論（行政法の基本原則と行政作用法）、及び行政救済法の分野から出題します。
国際法	国際公法の分野から論述問題を出题します。
刑法*	刑法総論、同各論の両分野から各1問出題します。
税財政法*	租税実体法のうち所得税法、および租税手続法を出題範囲とします。所得税法全般から基本的な事項について、租税手続法からは租税確定手続に関する内容を中心に出题します。
刑事訴訟法*	刑事訴訟法捜査の領域および公判の領域から各1問ずつ出題します。
労働法*	労働法全般から出題します。多くの教科書で共通して取り上げられている内容・論点や、「別冊ジュリスト197号労働判例百選（第8版）」（有斐閣、2009年）に掲載されている判例を十分に勉強しておいてください。教科書は特に指定しませんが、一例として以下が挙げられます。 名古・吉田・根本編『労働法Ⅰ 集団的労働関係法・雇用保障法』（2012年・法律文化社） 吉田・名古・根本編『労働法Ⅱ 個別労働関係法第2版』（2013年・法律文化社）
社会保障法*	社会保障法全般から基本的な論点、内容について出題します。
民法*	民法全般から出題します。多くの教科書で共通して取り上げられている内容・論点や、「別冊ジュリスト195号民法判例百選Ⅰ（第6版）総則・物権」「別冊ジュリスト196号民法判例百選Ⅱ（第6版）債権」「別冊ジュリスト193号家族法判例百選（第7版）」に掲載されている判例を十分に勉強しておいてください。

専門科目	備 考
民事訴訟法 1 *	狭義の民事訴訟法（判決手続全般）を対象とします。
民事訴訟法 2（倒産法）*	破産法及び民事再生法を対象とします。
商法 1（会社法）*	会社法全般から出題します。
商法 2（手形法・小切手法、 商法総則・商行為法）*	手形法・小切手法及び商法総則・商行為法を対象とします。
国際私法	国際私法（国際民事手続法を含む）全般から基本的な論点・内容について、論述形式で出題します。
国際取引法	国際取引法全般（主として国際物品売買、国際物品運送、国際投資、国際取引における紛争解決）から基本的な論点・内容について、論述形式で出題します。
経済法*	経済法全般（GATT/WTO法を除く）から出題します。
知的財産法*	特許法と著作権法の分野から出題します。
公共政策論	主に公共事業や「新しい公共」などについて、広範な知識を問うように出題します。
政治社会学	選挙、政党、圧力団体、マスメディアから出題します。
政策過程論	政策過程研究で用いられる理論モデルに関する出題となります。
計量政治学	有権者の投票行動の研究について出題します。
政治思想史	ホブズからロールズ、ノージック、サンデルに至るまでの西欧政治思想史の基本的知識を問う出題となります。
政治コミュニケーション論	基礎的な知識に加え、選挙キャンペーン、政治活動と情報通信技術の関係、政治広報・宣伝を含む領域から出題します。

（注）上の表で*のついている法律学科目を受験する者には六法を貸与します。

別表 2 - ②

外国語科目	備 考
英語	英文を日本語訳させる問題又は日本語で要約させる問題を出します。
ドイツ語	独文を日本語訳させる問題又は日本語で要約させる問題を出します。
フランス語	仏文を日本語訳させる問題又は日本語で要約させる問題を出します。

（注）選択言語の辞書持込可、ただし電子辞書不可。

ii) 《社会人特別選抜》【第 1 期募集】【第 2 期募集】共通

プログラム名	筆 記 試 験	口述試験
基礎法学プログラム 公法学・社会学プログラム 民事法学プログラム 政治学プログラム	/	
		別表 2 - ③により実施します。

別表 2 - ③

口述試験等	備 考
書類審査	学業成績証明書及び提出された研究計画書により書類審査を行います。
口述試験	提出された研究計画書を中心に行います。

iii) 《外国人留学生特別選抜》【第 1 期募集】【第 2 期募集】共通

プログラム名	筆 記 試 験	口述試験
基礎法学プログラム 公法学・社会学プログラム 民事法学プログラム 政治学プログラム	別表 2 - ①の専門科目から入学後専攻しようとする科目 1 科目（第 1 希望の指導教員の科目）を選択。辞書持込可（辞典類、電子辞書は不可）。	提出された研究計画書及び受験した専門科目を中心に行います。

経済学専攻

i) 《一般選抜》【第1期募集】【第2期募集】共通

コース名	筆記試験	口述試験
	専門科目	
経済理論・政策コース	別表3-①から1科目選択。入学後の研究計画に則した科目を選択してください。	提出された出願書類にもとづき、これまでの学習・研究状況や今後の研究計画について行います。
国際社会・経済コース		
経営情報コース		

別表3-①

専門科目	備考
経済理論	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。3問（社会経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学）から2問を選択する形式です。 社会経済学：置塩信雄・鶴田満彦・米田康彦『経済学』（大月書店、1998年） ミクロ経済学：井堀利宏『入門ミクロ経済学 第2版』（新世社、2004年） マクロ経済学：井堀利宏『入門マクロ経済学 第3版』（新世社、2011年）
経済史	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。 飯田隆『図説 西洋経済史』（日本経済評論社、2005年） 大石嘉一郎『日本資本主義百年の歩み』（東大出版会、2005年） 久保亨編『中国経済史入門』（東京大学出版会、2012年）
国際経済	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。 新岡智・板木雅彦・増田正人編『国際経済政策論』（有斐閣ブックス、2005年） 石川城太・菊池徹・椋寛『国際経済学をつかむ』（有斐閣、2007年） 田中素香・岩田健治編『現代国際金融』（有斐閣、2008年）
経済政策論 (社会政策論を含む)	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。 山田節夫『ベーシック経済政策』（同文館、2010年） 田代洋一・荻原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策（第4版）』（有斐閣ブックス、2011年）
経営学 (会計学を含む)	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。 伊丹敬之・加護野忠夫『ゼミナール経営学入門（第3版）』（日本経済新聞社、2003年） 藤本隆宏『日本のもの造り哲学』（日本経済新聞社、2004年） 伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門（第8版）』（日本経済新聞社、2010年） 醍醐聰『会計学講義〔第4版〕』（東京大学出版会、2008年）

ii) 《社会人特別選抜》【第1期募集】【第2期募集】共通

コース名	筆記試験	口述試験
	専門科目	
経済理論・政策コース	/	別表3-②により実施します。
国際社会・経済コース		
経営情報コース		

別表3-②

口述試験等	備 考
書類審査	提出された研究経過・実績報告書を審査します。
口述試験	提出された出願書類にもとづき、これまでの学習・研究状況や今後の研究計画について行います。

iii) 《外国人留学生特別選抜》【第1期募集】【第2期募集】共通

コース名	筆 記 試 験	口述試験
	専門科目	
経済理論・政策コース	別表3-③から1科目選択。入学後の研究計画に則した科目を選択してください。	提出された出願書類にもとづき、これまでの学習・研究状況や今後の研究計画について行います。
国際社会・経済コース		
経営情報コース		

注：筆記試験及び口述試験は日本語で行われます。

別表3-③

専門科目	備 考
経済理論	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。3問（社会経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学）から2問を選択する形式です。 社会経済学：置塩信雄・鶴田満彦・米田康彦『経済学』（大月書店、1998年） ミクロ経済学：井堀利宏『入門ミクロ経済学 第2版』（新世社、2004年） マクロ経済学：井堀利宏『入門マクロ経済学 第3版』（新世社、2011年）
経済史	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。 飯田隆『図説 西洋経済史』（日本経済評論社、2005年） 大石嘉一郎『日本資本主義百年の歩み』（東大出版会、2005年） 久保亨編『中国経済史入門』（東京大学出版会、2012年）
国際経済	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。 新岡智・板木雅彦・増田正人編『国際経済政策論』（有斐閣ブックス、2005年） 石川城太・菊池徹・椋寛『国際経済学をつかむ』（有斐閣、2007年） 田中素香・岩田健治編『現代国際金融』（有斐閣、2008年）
経済政策論 （社会政策論を含む）	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。 山田節夫『ベーシック経済政策』（同文館、2010年） 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策（第4版）』（有斐閣ブックス、2011年）
経営学 （会計学を含む）	次の課題テキストの内容に関連した出題となります。 伊丹敬之・加護野忠夫『ゼミナール経営学入門（第3版）』（日本経済新聞社、2003年） 藤本隆宏『日本のもの造り哲学』（日本経済新聞社、2004年） 伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門（第8版）』（日本経済新聞社、2010年） 醍醐聰『会計学講義 [第4版]』（東京大学出版会、2008年）

地域創造学専攻

i) 《一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜》【第1期募集】【第2期募集】共通

コース名	筆記試験		口述試験
	外国語科目	専門科目	
地域創造学コース		別表4-①から入学後専攻しようとする科目1科目（第1希望の指導教員の科目）を選択	提出された研究計画書及び受験した専門科目を中心に行う。

別表4-①

専門科目	備考
地域社会学	次の課題テキストの内容に関連した基礎問題と専門問題から出題します。 地域社会学会編『新版キーワード地域社会学』（ハーベスト社, 2011年）
公共社会学	次の課題テキストの内容に関連した基礎問題と専門問題から出題します。 武川正吾著『政策志向の社会学』（有斐閣, 2012年）、 坏洋一著『福祉国家』（法律文化社, 2012年）
社会政策論	基礎問題と専門問題から出題します。
社会保障論	社会保障に関する基礎問題と専門問題から出題します。
社会福祉学	次の課題テキストの内容に関連した基礎問題と専門問題から出題します。 金子光一著『社会福祉のあゆみ』（有斐閣, 2005年）
福祉政策論	基礎問題と専門問題から出題します。
医療社会学	基礎問題と専門問題から出題します。基礎問題は次の課題テキストの内容に関連した出題となります。 中川輝彦・黒田浩一郎（編著）『よくわかる医療社会学』（ミネルヴァ書房, 2010年）
環境教育	次の課題テキストの内容に関連した基礎問題と専門問題から出題します。 日本環境教育学会編『環境教育』（教育出版, 2013年） 生物多様性国家戦略（環境省） 森林・林業白書（林野庁）
環境政策論	基礎問題と専門問題から出題します。
地域居住学	基礎問題と専門問題から出題します。
人文地理学A	人文地理学全体にわたり、基礎問題と専門問題から出題します。
人文地理学B	基礎問題と専門問題から出題します。
自然地理学	基礎問題と専門問題から出題します。
スポーツ社会学	次の課題テキストの内容に関連した基礎問題と専門問題から出題します。 森川貞夫・佐伯聡夫編著『スポーツ社会学講義』（大修館書店, 1988年）
スポーツ経営学	次の課題テキストの内容に関連した基礎問題と専門問題から出題します。 八代勉・中村平編『体育・スポーツ経営学講義』（大修館書店, 2002年） 山下秋二・中西純司ほか編『改訂版スポーツ経営学』（大修館書店, 2006年）
健康増進科学	健康科学（運動生理学・生化学、応用生命科学を含む）に関する基礎問題と専門問題から出題します。
健康栄養学	基礎問題と専門問題から出題します。
健康教育学	基礎問題と専門問題から出題します。

国際学専攻

《一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜》【第1期募集】【第2期募集】共通

コース名	分野又は区分	筆記試験	口述試験
		専門科目	
国際関係・地域研究コース	国際関係学／アジア地域研究／米英地域研究／ヨーロッパ地域研究	別表5-①から入学後専攻しようとする科目1科目（希望する指導教員の科目）を選択	提出された研究計画書，卒業論文またはそれに代わる研究レポート等の内容及び受験した専門科目を中心に行います。
日本語教育・日本文化研究コース	日本語教育学／日本語学／日本文化学	別表5-②から1科目を選択	

別表5-①

専門科目	備 考
国際関係学	一部に英語の問題を出題します。
アジア地域研究	一部に中国語または朝鮮語の問題を出題します（1言語を選択）。*
米英地域研究	一部に英語の問題を出題します。
ヨーロッパ地域研究	一部にドイツ語，フランス語，スペイン語，イタリア語の問題を出題します（1言語を選択）。*

*の言語については，事前に入志願票にて選択します。

別表5-②

専門科目	備 考
日本語教育学・日本語学／日本文化学	「日本語教育学・日本語学」，「日本文化学」のどちらかの問題を選択

11 合格者発表

区 分	日 時
第1期募集	2014年(平成26年)8月5日(火) 午前10時
第2期募集	2015年(平成27年)2月27日(金) 午前10時

【注】 本学所定の掲示板（人間社会第1講義棟1階）に発表するとともに、郵便で通知します。

なお、電話、電子メール等による可否の問い合わせには一切応じません。

12 入学時に必要な経費

(1) 入 学 料 282,000円

【注】 1 上記の納付金額は予定額であり、入学時に入学料が改定された場合には、改定時から新入学料が適用されます。

2 入学料については、徴収猶予又は免除の制度があります。

3 海外から送金する場合は、次の点に注意してください。

① まず、海外送金することについて、巻末の各専攻担当の問い合わせ先に余裕をもって事前相談してください。

② 送金から着金までに時間がかかるので、早めの手続をしてください。

③ 送金先の銀行口座は限定しています。銀行名、口座番号等に関しては①の事前相談で確認してください。

④ 送金は、日本円をお願いします。

⑤ 送金手数料は、依頼人（送金側）の負担です。

⑥ 送金の手続を取る際は、巻末の各専攻担当の問い合わせ先に連絡を取り、次のことを確実に伝えてください。

- ・あなたのお名前
- ・送金手続する日にち
- ・送金手続する海外の銀行・支店名
- ・入学検定料の送金であることと
- ・送金額が282,000円であること

⑦ 中国からの送金の場合は、中国銀行(Bank of China)で送金手続すると、入金確認が早くできます。

(2) その他の経費

本学では学生生活における事故等に備え、必要な保険に加入することを強く推奨しております。

学生教育研究災害傷害保険料（2年分） 1,750円

13 授業料の納入

授業料の納入方法は、本学指定の銀行が、学生等の開設した預金口座から自動的に授業料を口座振替する「預金口座振替」となっています。手続きについては、2015年(平成27年)3月上旬に入学手続要項とともに送付するパンフレット「授業料の納入について」を参照してください。

授業料(前期分) 267,900円 (授業料年額 535,800円)

- 【注】 1 上記の金額は予定額であり，入学時又は在学中に授業料が改定された場合には，改定時から新授業料が通用されます。
- 2 授業料については，免除の制度があります。

14 修業年限

(1) 標準修業年限

人間社会環境研究科（博士前期課程）の標準修業年限は2年です。ただし，優れた研究業績を上げた者については，1年で修了することが認められる場合があります。

(2) 長期履修制度

人間社会環境研究科（博士前期課程）では，短期在学型（1年）を除いて，標準修業年限内の修学が困難な事情にある者に，次のとおり標準修業年限を超えて履修を認める特別な制度があります。詳細については，合格発表後，合格者に通知します。

① 対象となる学生

- ア 入学時において社会人有職者であって（臨時雇用を含む。），職務上の事情により著しく学修時間の制約を受ける者
- イ 家事，育児，介護等に従事している者で，その事情により著しく学修時間の制約を受ける者
- ウ その他，本研究科において長期履修学生として認定できると認められる事由がある者

② 長期履修の期間

人間社会環境研究科(博士前期課程)における長期履修の期間は，3年又は4年とします。

③ 授業料

標準修業年限により修学する場合と授業料の総額は同じです。

ただし，在学中に授業料が改定された場合は，改定後の授業料の額に基づき再計算されます。

【注】 長期履修希望者の申請は，場合によっては許可されないこともあります。

15 注意事項

- ① 一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜は併願できませんので，いずれか一つを選択し，出願してください。
- ② 出願書類受理後は，書類の返却，記載事項の変更，及び入学検定料の払い戻しには応じられません。
ただし，入学検定料の振込後，出願を取り止めた場合は返還手続を行うことができますので，下記まで連絡してください。なお，返還の際は「領収書（本人控）」及び「振込金証明書（提出用）」が必要になります。

金沢大学財務部財務管理課出納係
〒920-1192 金沢市角間町
電話 076-264-5059～5060

- ③ 選抜試験において筆記試験が課せられている場合には，筆記試験を受験しなければ，口述試験は受験できません。

- ④ 出願書類に虚偽の記載，不正申告をした者及び入学試験において不正な行為を行った事実が判明した者については，入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。その場合，振り込まれた入学金は返納しません。
- ⑤ 入学を志願する者で，障害等があり，受験及び修学に特別な配慮を必要とする者は，出願に先立ち申請書（様式は自由）を金沢大学人間社会系事務部学生課学務係へ提出し相談してください。
- ⑥ 学生募集要項・出願書類用紙の郵送を希望するときは，封筒の表に「人間社会環境研究科（博士前期課程）募集要項請求」と朱書きし，返信用封筒（角形2号「240mm×332mm」）に郵便切手250円を貼付し，郵便番号，住所，氏名を明記したものを同封の上，金沢大学人間社会系事務部学生課学務係へ申し込んでください。

16 個人情報保護

金沢大学では、「国立大学法人金沢大学個人情報管理規程」等を制定し，本学が保有する個人情報の適正な管理と保護に努めています。

本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報及び入学手続き時に提出していただく全ての書類に記載されている個人情報は，次の業務で利用します。

- ① 入学者選抜及び入学手続きに関わる業務
- ② 入学後の学籍管理，修学指導に関わる業務及び健康診断等の保健管理に関わる業務
- ③ 入学金免除，授業料免除，奨学生選考等の修学支援に関わる業務
- ④ 入学金・授業料の納入に関わる業務及び収納業務を委託する金融機関での必要な業務
- ⑤ 入学者選抜に関する個人が特定できない形で行う調査研究業務
- ⑥ 卒業（修了）生に対する学習成果等調査（アウトカムズ・アセスメント），同窓会活動への支援等に関する業務
- ⑦ その他，個人が特定できない形で行う統計処理業務

17 参考資料

入学年度	人文学専攻			法学・政治学専攻			経済学専攻			地域創造学専攻			国際学専攻		
	入学志願者数	合格者数	入学者数	入学志願者数	合格者数	入学者数	入学志願者数	合格者数	入学者数	入学志願者数	合格者数	入学者数	入学志願者数	合格者数	入学者数
24年度(第1期)	20	15	14	5	3	3	7	3	3	10	6	6	10	7	7
24年度(第2期)	19	15	14	7	5	4	9	3	3	9	4	4	6	5	5
25年度(第1期)	6	4	3	6	4	3	7	4	4	8	5	3	4	2	2
25年度(第2期)	16	15	14	8	5	5	6	2	2	15	7	7	12	6	6
26年度(第1期)	13	10	9	5	4	3	5	2	1	4	3	3	4	3	3
26年度(第2期)	20	15	12	7	4	4	7	2	2	12	6	6	7	7	7

18 授業科目及び担当教員

* 担当教員欄が空欄になっている科目は、担当教員の退職等で未定の科目あるいは非常勤講師担当科目です。

(1) 人文学専攻

学際総合型プログラム			
コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
認知科学	専門基礎科目	認知科学基礎論	プログラム担当者全員
		認知科学研究法	小島 治幸 松川 順子 岡田 努 谷内 通 荒木友希子
		認知哲学	柴田 正良
		認知倫理学	
		比較認知特論	谷内 通
		認知心理学特論	松川 順子
		認知神経科学特論	小島 治幸
		認知臨床心理学特論	荒木友希子
		環境言語学・認知コミュニケーション論	竹内 義晴
		認知言語科学基礎	阪上るり子
		認知文法論基礎	堀田 優子
		認知意味論	入江 浩司
		進化言語学基礎	中村 芳久
		言語構造分析特論	高山 知明
		言語認知実験特論	安永 大地
		調査データ収集分析法	轟 亮
		認知科学特論	
		専門応用科目	認知哲学演習
	認知倫理学演習		
	比較認知演習		谷内 通
	認知心理学演習		松川 順子
	認知神経科学演習		小島 治幸
	認知臨床心理学演習		荒木友希子
	認知言語科学演習Ⅰ		高山 知明
	認知言語科学演習Ⅱ		中村 芳久
	認知言語科学演習Ⅲ		堀田 優子
	認知言語科学演習Ⅳ		阪上るり子
	言語類型論演習		入江 浩司
	言語認知実験演習		安永 大地
	言語定量分析演習		(松田真希子)
	環境言語学・認知コミュニケーション論演習		竹内 義晴
	進化言語学演習		中村 芳久
	認知科学理論研究	プログラム担当者全員	
比較環境倫理学	専門基礎科目	比較環境倫理学特論Ⅰ a	三浦 要
		比較環境倫理学特論Ⅰ b	
		比較環境倫理学特論Ⅱ a	(清水 邦彦)
		比較環境倫理学特論Ⅱ b	
		比較環境倫理学特論Ⅲ a	(山本 洋)
		比較環境倫理学特論Ⅲ b	
		比較環境倫理学特論Ⅳ	柴田 正良

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
比較環境倫理学	専門応用科目	比較環境倫理学演習Ⅰ a	三浦 要
		比較環境倫理学演習Ⅰ b	
		比較環境倫理学演習Ⅱ a	(清水 邦彦)
		比較環境倫理学演習Ⅱ b	
		比較環境倫理学演習Ⅲ a	
		比較環境倫理学演習Ⅲ b	
		比較環境倫理学演習Ⅳ	柴田 正良
ヨーロッパ・東アジア文化圏史	専門基礎科目	近代日本帝国史特論	能川 泰治
		東アジア文化圏史特論Ⅰ a	安部聡一郎
		東アジア文化圏史特論Ⅰ b	
		東アジア文化圏史特論Ⅱ a	古市 大輔
		東アジア文化圏史特論Ⅱ b	
		正教世界史特論Ⅰ	根津由喜夫
		正教世界史特論Ⅱ	
		ヨーロッパ中世社会史特論Ⅰ	田中 俊之
		ヨーロッパ中世社会史特論Ⅱ	
		イギリス帝国史特論Ⅰ	
		イギリス帝国史特論Ⅱ	
	専門応用科目	近代日本帝国史演習Ⅰ	能川 泰治
		近代日本帝国史演習Ⅱ	
		近代日本帝国史演習Ⅲ	
		近代日本帝国史演習Ⅳ	
		東アジア文化圏史演習Ⅰ a	安部聡一郎
		東アジア文化圏史演習Ⅰ b	
		東アジア文化圏史演習Ⅱ a	古市 大輔
		東アジア文化圏史演習Ⅱ b	
		正教世界史演習Ⅰ	根津由喜夫
		正教世界史演習Ⅱ	
		正教世界史演習Ⅲ	
		正教世界史演習Ⅳ	
		ヨーロッパ中世社会史演習Ⅰ	田中 俊之
		ヨーロッパ中世社会史演習Ⅱ	
		ヨーロッパ中世社会史演習Ⅲ	
		ヨーロッパ中世社会史演習Ⅳ	
イギリス帝国史演習Ⅰ			
イギリス帝国史演習Ⅱ			
イギリス帝国史演習Ⅲ			
イギリス帝国史演習Ⅳ			
比較文学	専門基礎科目	比較文学基礎論	プログラム担当者全員
		比較文学特論Ⅰ a	
		比較文学特論Ⅰ b	
		比較文学特論Ⅰ c	鈴木 暁世
		比較文学特論Ⅰ d	杉山 欣也
		比較文学特論Ⅱ	上田 望
		比較文学特論Ⅲ	高田 茂樹
		比較文学特論Ⅳ a	(志村 恵)
		比較文学特論Ⅳ b	佐藤 文彦
		比較文学特論Ⅴ a	(粕谷 雄一)
		比較文学特論Ⅴ b	岩津 航

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
比較文学	専門応用科目	比較文学演習 I a	
		比較文学演習 I b	
		比較文学演習 I c	杉山 欣也
		比較文学演習 II	上田 望
		比較文学演習 III	高田 茂樹
		比較文学演習 IV a	(志村 恵)
		比較文学演習 IV b	佐藤 文彦
		比較文学演習 V a	(粕谷 雄一)
		比較文学演習 V b	岩津 航
ジェンダー学	専門基礎科目	文学研究とジェンダー	和泉 邦子
		ジェンダー表象論	
		ジェンダー地理学	神谷 浩夫
		児童文学とジェンダー	(大藪 加奈)
		異文化理解とジェンダー	
		環境思想とジェンダー	(結城 正美)
		仕事とジェンダー	岩本 健良
		社会情報学特論	岩本 健良
		ジェンダーの発達心理学	(八重沢美知子)
	専門応用科目	文学研究とジェンダー演習	和泉 邦子
		ジェンダー表象論演習	
		福祉社会とジェンダー	(高橋 涼子)
		児童文学とジェンダー演習	(大藪 加奈)
		異文化理解とジェンダー演習	
環境思想とジェンダー演習	(結城 正美)		
文化資源学	専門基礎科目	文化資源学概論	プログラム担当者全員
		伝承文化資源学 I	鏡味 治也
		伝承文化資源学 II	西本 陽一
		伝承文化資源学 III	アートル・ジョン
		形態文化資源学 I	宮下 孝晴
		形態文化資源学 II	藤井 純夫
		形態文化資源学 III	(山形真理子) (泰 小麗) (吉田 泰幸)
		文化資源情報学 I	矢口 直道
		文化資源情報学 II	矢口 直道
		文化資源情報学 III	森 雅秀
		文化資源学現地研修	プログラム担当者全員
	専門応用科目	伝承文化資源学演習 I	鏡味 治也
		伝承文化資源学演習 II	西本 陽一
		形態文化資源学演習 I	宮下 孝晴
		形態文化資源学演習 II	藤井 純夫
		文化資源情報学演習 I	森 雅秀
		文化資源情報学演習 II	矢口 直道
		文化資源学実習 I	プログラム担当者全員
		文化資源学実習 II	プログラム担当者全員

(注) ()を付した教員は他専攻の専任教員ですので、原則、指導希望教員には指名できません。ただし、理由により認める場合がありますので、指導を希望する場合には、事前に担当学務係までご相談ください。

専門深化型プログラム			
コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
哲学	専門基礎科目	西洋哲学思想	
		西洋哲学特論Ⅰ	
		西洋哲学特論Ⅱ	
		倫理学特論	柴田 正良
		現代哲学特論	
		西洋哲学史Ⅰ	三浦 要
		西洋哲学史Ⅱ	
		西洋哲学史特論Ⅰ	
	西洋哲学史特論Ⅱ		
	専門応用科目	西洋哲学演習Ⅰ	柴田 正良
		西洋哲学演習Ⅱ	
		現代哲学演習	
		倫理学演習	
		倫理思想史演習Ⅰ	三浦 要
		倫理思想史演習Ⅱ	
		西洋古代哲学演習Ⅰ	
		西洋古代哲学演習Ⅱ	
		西洋哲学史演習Ⅰ	
西洋哲学史演習Ⅱ			
心理学	専門基礎科目	学習心理学特論	谷内 通
		認知心理学特論	松川 順子
		実験心理学特論	小島 治幸
		人格心理学特論	岡田 努
		臨床心理学特論	荒木友希子
		心理臨床基礎論	(萱原 道春)
		心理発達応用論	(大井 学)
		心理学特論	
	専門応用科目	学習心理学演習Ⅰ	谷内 通
		学習心理学演習Ⅱ	
		認知心理学演習Ⅰ	松川 順子
		認知心理学演習Ⅱ	
		実験心理学演習Ⅰ	小島 治幸
		実験心理学演習Ⅱ	
		臨床心理学演習Ⅰ	荒木友希子
		臨床心理学演習Ⅱ	
		人格心理学演習Ⅰ	岡田 努
		人格心理学演習Ⅱ	
心理学特別演習Ⅰ	松川 順子		
心理学特別演習Ⅱ			
心理学基礎実習Ⅰ	小島 治幸		
心理学基礎実習Ⅱ			
応用心理学実習			
社会学	専門基礎科目	社会理論	
		社会分析	
		データ収集基礎論	
		データ分析基礎論	轟 亮
		社会学調査実習	溝部 明男
		社会学分析実習	

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
社会学	専門応用科目	理論社会学特論	溝部 明男
		社会行動論特論	轟 亮
		社会学演習 I	溝部 明男
		社会学演習 II	溝部 明男
		社会学演習 III	轟 亮
		社会学演習 IV	
地理学	専門基礎科目	地理学特論 I	神谷 浩夫
		地理学特論 II	
		地理学特論 III	中島 弘二
		地理学特論 IV	
		地理学特論 V	
		地理学特論 VI	
		地誌学特論 I	
		地誌学特論 II	
		地誌学特論 III	中島 弘二
		地誌学特論 IV	
	専門応用科目	地理学演習 I	中島 弘二
		地理学演習 II	神谷 浩夫
		地理学演習 III	中島 弘二
		地域プランニング演習	神谷 浩夫
		地域調査演習	中島 弘二
		地域プランニング実習	神谷 浩夫
		地域調査実習	中島 弘二
		地理学実習	神谷 浩夫 中島 弘二
日本史学	専門基礎科目	日本古代中世史 I	
		日本古代中世史 II	平瀬 直樹
		日本古代中世史 III	
		日本近世近代史 I	
		日本近世近代史 II	能川 泰治
		日本近世近代史 III	
	専門応用科目	日本古代史演習 I	
		日本古代史演習 II	
		日本古代史演習 III	
		日本古代史演習 IV	
		日本中世史演習 I	平瀬 直樹
		日本中世史演習 II	
		日本中世史演習 III	
		日本中世史演習 IV	
		日本近世史演習 I	上田 長生
		日本近世史演習 II	
		日本近世史演習 III	
		日本近世史演習 IV	
		日本近代史演習 I	能川 泰治
		日卒近代史演習 II	
		日本近代史演習 III	
		日本近代史演習 IV	
日本史学研究法演習 I	平瀬 直樹 上田 長生 能川 泰治		
日本史学研究法演習 II			

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
日本史学	専門応用科目	日本史学研究法演習Ⅲ	平瀬 直樹
		日本史学研究法演習Ⅳ	能川 泰治
		日本史学実習	平瀬 直樹 上田 長生 能川 泰治
東洋史学	専門基礎科目	東洋史学特論Ⅰ a	安部聡一郎
		東洋史学特論Ⅰ b	
		東洋史学特論Ⅱ a	(古畑 徹)
		東洋史学特論Ⅱ b	
		東洋史学特論Ⅲ a	古市 大輔
		東洋史学特論Ⅲ b	
		東洋史学特論Ⅳ a	
	東洋史学特論Ⅳ b		
	専門応用科目	東洋史学演習Ⅰ a	安部聡一郎
		東洋史学演習Ⅰ b	
		東洋史学演習Ⅱ a	(古畑 徹)
		東洋史学演習Ⅱ b	
		東洋史学演習Ⅲ a	古市 大輔
		東洋史学演習Ⅲ b	
東洋史学基礎実習		(古畑 徹) 古市 大輔 安部聡一郎	
東洋史学展開実習	(古畑 徹) 古市 大輔 安部聡一郎		
西洋史学	専門基礎科目	地中海世界史特論Ⅰ	根津由喜夫
		地中海世界史特論Ⅱ	
		西洋中世史特論Ⅰ	田中 俊之
		西洋中世史特論Ⅱ	
		西洋近代史特論Ⅰ	
		西洋近代史特論Ⅱ	
		西洋史学特論Ⅰ	
		西洋史学特論Ⅱ	
	専門応用科目	地中海世界史演習Ⅰ	根津由喜夫
		地中海世界史演習Ⅱ	
		地中海世界史演習Ⅲ	
		地中海世界史演習Ⅳ	
		西洋中世史演習Ⅰ	田中 俊之
		西洋中世史演習Ⅱ	
		西洋中世史演習Ⅲ	
		西洋中世史演習Ⅳ	
		西洋近代史演習Ⅰ	
西洋近代史演習Ⅱ			
西洋近代史演習Ⅲ			
西洋近代史演習Ⅳ			
考古学	専門基礎科目	比較考古学特論Ⅰ	足立 拓朗
		比較考古学特論Ⅱ	足立 拓朗
		地域考古学特論Ⅰ	(高浜 秀)
		地域考古学特論Ⅱ	足立 拓朗
		比較文化考古学特論Ⅰ	
		比較文化考古学特論Ⅱ	

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
考古学	専門応用科目	アジア考古学演習Ⅰ	足立 拓朗
		アジア考古学演習Ⅱ	足立 拓朗
		アジア考古学演習Ⅲ	
		アジア考古学演習Ⅳ	足立 拓朗
		地域文化考古学演習Ⅰ	足立 拓朗
		地域文化考古学演習Ⅱ	足立 拓朗
		地域文化考古学演習Ⅲ	足立 拓朗
		地域文化考古学演習Ⅳ	
		考古学実習Ⅰ	足立 拓朗
		考古学実習Ⅱ	
		考古学実習Ⅲ	
		考古学実習Ⅳ	
日本語学日本文学	専門基礎科目	日本語学特論Ⅰ	高山 知明
		日本語学特論Ⅱ	
		現代日本語学特論Ⅰ	(加藤 和夫)
		現代日本語学特論Ⅱ	
		日本語研究特講Ⅰ	
		日本語研究特講Ⅱ	
		日本古典学特論Ⅰ	
		日本古典学特論Ⅱ	
		日本近代文学特論	鈴木 暁世
		日本現代文学特論	杉山 欣也
		近代文学と古典	杉山 欣也
		古典の変容と新生Ⅰ	
		古典の変容と新生Ⅱ	
		専門応用科目	日本語学演習Ⅰ
	日本語学演習Ⅱ		
	現代日本語学演習Ⅰ		(加藤 和夫)
	現代日本語学演習Ⅱ		
	日本古典学演習Ⅰ		
	日本古典学演習Ⅱ		
	日本近代文学演習Ⅰ		鈴木 暁世
	日本近代文学演習Ⅱ		
	日本現代文学演習Ⅰ	杉山 欣也	
日本現代文学演習Ⅱ			
中国語学中国文学	専門基礎科目	中国文化環境学	大滝 幸子 岩田 礼 上田 望
		中国文学史各論Ⅰ	上田 望
		中国文学史各論Ⅱ	
		中国文学各論Ⅰ	上田 望
		中国文学各論Ⅱ	(李 鐸)
		中国文学各論Ⅲ	
		中国語学各論Ⅰ	岩田 礼
		中国語学各論Ⅱ	大滝 幸子
		中国語学各論Ⅲ	大滝 幸子
		専門応用科目	中国語学演習Ⅰ
	中国語学演習Ⅱ		岩田 礼
	中国文学演習Ⅰ		上田 望
	中国文学演習Ⅱ		

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員	
中国語学中国文学	専門応用科目	中国文学演習Ⅲ	上田 望	
		中国文学演習Ⅳ		
英語学英米文学	専門基礎科目	英語学序説Ⅰ a	中村 芳久	
		英語学序説Ⅰ b		
		英語学序説Ⅱ a		
		英語学序説Ⅱ b		
		英語学特論Ⅰ a	堀田 優子	
		英語学特論Ⅰ b		
		英語学特論Ⅱ a		
		英語学特論Ⅱ b		
		イギリス言語文化研究Ⅰ a	高田 茂樹	
		イギリス言語文化研究Ⅰ b		
		イギリス言語文化研究Ⅱ a		
		イギリス言語文化研究Ⅱ b		
		英語圏文学特論Ⅰ a	和泉 邦子	
		英語圏文学特論Ⅰ b		
		英語圏文学特論Ⅱ a		
		英語圏文学特論Ⅱ b		
	比較英米文化論Ⅰ a	(小原 文衛)		
	比較英米文化論Ⅰ b			
	比較英米文化論Ⅱ a			
	比較英米文化論Ⅱ b			
	専門応用科目	英文法演習Ⅰ a	英文法演習Ⅰ a	中村 芳久
			英文法演習Ⅰ b	
			英文法演習Ⅱ a	
			英文法演習Ⅱ b	
		英語学演習Ⅰ a	英語学演習Ⅰ a	堀田 優子
			英語学演習Ⅰ b	
			英語学演習Ⅱ a	
			英語学演習Ⅱ b	
英文学演習Ⅰ a		英文学演習Ⅰ a	高田 茂樹	
		英文学演習Ⅰ b		
		英文学演習Ⅱ a		
		英文学演習Ⅱ b		
英語圏文学演習Ⅰ a	英語圏文学演習Ⅰ a	和泉 邦子		
	英語圏文学演習Ⅰ b			
	英語圏文学演習Ⅱ a			
	英語圏文学演習Ⅱ b			
英米文化演習Ⅰ a	英米文化演習Ⅰ a	(村上 清敏)		
	英米文化演習Ⅰ b			
	英米文化演習Ⅱ a			
	英米文化演習Ⅱ b			
ドイツ語学ドイツ文学	専門基礎科目	ドイツ語学研究論Ⅰ	竹内 義疇	
		ドイツ語学研究論Ⅱ	竹内 義疇	
		ドイツ語学特論Ⅰ	竹内 義疇	
		ドイツ語学特論Ⅱ		
		ドイツ文学研究論Ⅰ	佐藤 文彦	
		ドイツ文学研究論Ⅱ	(志村 恵)	
		ドイツ文学特論Ⅰ		
		ドイツ文学特論Ⅱ	(志村 恵)	

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
ドイツ語学ドイツ文学	専門応用科目	ドイツ語学基礎演習Ⅰ	竹内 義疇
		ドイツ語学基礎演習Ⅱ	
		ドイツ語学総合演習Ⅰ	
		ドイツ語学総合演習Ⅱ	
		ドイツ近代文学演習Ⅰ	佐藤 文彦
		ドイツ近代文学演習Ⅱ	(志村 恵)
		ドイツ文学演習Ⅰ	佐藤 文彦
		ドイツ文学演習Ⅱ	(志村 恵)
		ドイツ語運用力演習Ⅰ	ラントハーゲ・ザビーネ
		ドイツ語運用力演習Ⅱ	
		ドイツ語運用力演習Ⅲ	
		ドイツ語運用力演習Ⅳ	
フランス語学フランス文学	専門基礎科目	フランス語学Ⅰ	阪上るり子
		フランス語学Ⅱ	
		フランス語学特論Ⅰ	
		フランス語学特論Ⅱ	
		フランス文学Ⅰ a	(粕谷 雄一)
		フランス文学Ⅰ b	岩津 航
		フランス文学Ⅱ a	(粕谷 雄一)
		フランス文学Ⅱ b	岩津 航
		フランス文学特論Ⅰ a	(粕谷 雄一)
		フランス文学特論Ⅰ b	岩津 航
		フランス文学特論Ⅱ a	(粕谷 雄一)
		フランス文学特論Ⅱ b	岩津 航
	専門応用科目	フランス語学演習Ⅰ	阪上るり子
		フランス語学演習Ⅱ	
		フランス語学演習Ⅲ	
		フランス語学演習Ⅳ	
		フランス文学演習Ⅰ a	(粕谷 雄一)
		フランス文学演習Ⅰ b	岩津 航
		フランス文学演習Ⅱ a	(粕谷 雄一)
		フランス文学演習Ⅱ b	岩津 航
		フランス文学演習Ⅲ a	(粕谷 雄一)
		フランス文学演習Ⅲ b	岩津 航
フランス文学演習Ⅳ a	(粕谷 雄一)		
フランス文学演習Ⅳ b	岩津 航		
言語学	専門基礎科目	個別言語特論Ⅰ	入江 浩司
		個別言語特論Ⅱ	
		言語学特論Ⅰ	新田 哲夫
		言語学特論Ⅱ	(峯 正志)
		言語科学研究	安永 大地
	専門応用科目	記述言語学実践研究	新田 哲夫
		言語学特論Ⅲ	
		言語学特論Ⅳ	
		言語学理論演習Ⅰ	入江 浩司
		言語学理論演習Ⅱ	
文化遺産学	専門基礎科目	芸術学特論	宮下 孝晴
		美術史特論	
		文明学特論	
		先史学特論	藤井 純夫

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
文化遺産学	専門基礎科目	物質文化史特論	
		技術文化史特論	藤井 純夫
		文化遺産学特論Ⅰ	中村 誠一
		文化遺産学特論Ⅱ	
	専門応用科目	文化遺産学実習Ⅰ	宮下 孝晴
		文化遺産学実習Ⅱ	藤井 純夫
		芸術学演習	宮下 孝晴
		美術史演習	
		文明学演習	中村 慎一
		先史学演習	藤井 純夫
		物質文化史演習	中村 慎一
		技術文化史演習	藤井 純夫
比較文化学	専門基礎科目	文化表象論	森 雅秀
		表現文化論	矢口 直道
		比較文化史	森 雅秀
		宗教造形論	矢口 直道
		東方文化交流史	
		アジア文化環境論	森 雅秀
		民族文化論	(粕谷 雄一)
	専門応用科目	比較文化学実習Ⅰ	森 雅秀
		比較文化学実習Ⅱ	矢口 直道
		宗教芸術論演習Ⅰ	矢口 直道
		宗教芸術論演習Ⅱ	
		文化変容論演習Ⅰ	森 雅秀
		文化変容論演習Ⅱ	
		文化交流史演習Ⅰ	
文化交流史演習Ⅱ			
文化人類学	専門基礎科目	文化動態論	鏡味 治也
		文化人類学特論	
		地域社会動態論	西本 陽一
		社会人類学特論	
		文化構造論	アートル・ジョン
		社会動態論	
		社会構造論	
	専門応用科目	文化人類学調査実習	鏡味 治也
		文化人類学分析実習	西本 陽一
		文化人類学演習Ⅰ	鏡味 治也
		文化人類学演習Ⅱ	鏡味 治也
		社会人類学演習Ⅰ	西本 陽一
		社会人類学演習Ⅱ	
		人類学演習Ⅰ	アートル・ジョン
人類学演習Ⅱ			

(注) ()を付した教員は他専攻の専任教員ですので、原則、指導希望教員には指名できません。ただし、理由により認める場合がありますので、指導を希望する場合には、事前に担当学務係までご相談ください。

(2) 法学・政治学専攻

科目区分	授業科目	担当教員
専攻共通科目	文献情報論（法学）	基礎法学部門教員
	文献情報論（政治学）	政治学部門教員
	日本法入門	公法学・社会学，民事法学部門教員
	日本法入門（英）	公法学・社会学，民事法学部門教員
	基礎講義Ⅰ	法学・政治学専攻教員
	基礎講義Ⅱ	法学・政治学専攻教員
	基礎講義Ⅲ	法学・政治学専攻教員
	プロジェクト研究	法学・政治学専攻教員
	インターンシップ	法学・政治学専攻教員
	論文指導Ⅰ	指導教員
	論文指導Ⅱ	指導教員
	論文指導Ⅲ	指導教員
	論文指導Ⅳ	指導教員
	基礎法学プログラム 選択必修科目	法理学特論Ⅰ
法理学演習Ⅰ		
法理学特論Ⅱ		
法理学演習Ⅱ		
日本法制史特論Ⅰ		丸本 由美子
日本法制史演習Ⅰ		
日本法制史特論Ⅱ		
日本法制史演習Ⅱ		
西洋法制史特論Ⅰ		櫻井 利夫
西洋法制史演習Ⅰ		
西洋法制史特論Ⅱ		
西洋法制史演習Ⅱ		
東洋法制史特論Ⅰ		中村 正人
東洋法制史演習Ⅰ		
東洋法制史特論Ⅱ		
東洋法制史演習Ⅱ		
外国法特論Ⅰ		東川 浩二
外国法演習Ⅰ		
外国法特論Ⅱ		
外国法演習Ⅱ		
法思想史特論Ⅰ		青野 透
法思想史演習Ⅰ		
法思想史特論Ⅱ		
法思想史演習Ⅱ		
公法学・社会学プログラム 選択必修科目	憲法特論Ⅰ	山崎 友也
	憲法演習Ⅰ	
	憲法特論Ⅱ	
	憲法演習Ⅱ	
	行政法特論Ⅰ	長内 祐樹
	行政法演習Ⅰ	
	行政法特論Ⅱ	
	行政法演習Ⅱ	
	税財政法特論Ⅰ	平川 英子
	税財政法演習Ⅰ	
	税財政法特論Ⅱ	
	税財政法演習Ⅱ	

科目区分	授業科目	担当教員
公法学・社会法学プログラム 選択必修科目	国際法特論Ⅰ	稲角 光恵
	国際法演習Ⅰ	
	国際法特論Ⅱ	
	国際法演習Ⅱ	
	刑法特論Ⅰ	永井 善之
	刑法演習Ⅰ	
	刑法特論Ⅱ	
	刑法演習Ⅱ	
	刑事訴訟法特論Ⅰ	大貝 葵
	刑事訴訟法演習Ⅰ	
	刑事訴訟法特論Ⅱ	
	刑事訴訟法演習Ⅱ	
	労働法特論Ⅰ	名古 道功
	労働法演習Ⅰ	
	労働法特論Ⅱ	
	労働法演習Ⅱ	
社会保障法特論Ⅰ	石田 道彦	
社会保障法演習Ⅰ		
社会保障法特論Ⅱ		
社会保障法演習Ⅱ		
民事法学プログラム 選択必修科目	民法特論第一Ⅰ	高 秀成
	民法演習第一Ⅰ	
	民法特論第一Ⅱ	
	民法演習第一Ⅱ	
	民法特論第二Ⅰ	合田 篤子
	民法演習第二Ⅰ	
	民法特論第二Ⅱ	
	民法演習第二Ⅱ	
	民事訴訟法特論Ⅰ	福本 知行
	民事訴訟法演習Ⅰ	
	民事訴訟法特論Ⅱ	
	民事訴訟法演習Ⅱ	
	商法特論第一Ⅰ	村上 裕
	商法演習第一Ⅰ	
	商法特論第一Ⅱ	
	商法演習第一Ⅱ	
	商法特論第二Ⅰ	永江 亘
	商法演習第二Ⅰ	
	商法特論第二Ⅱ	
	商法演習第二Ⅱ	
	経済法特論Ⅰ	齊藤 高広
	経済法演習Ⅰ	
	経済法特論Ⅱ	
	経済法演習Ⅱ	
	国際私法特論	羽賀由利子
	国際私法演習	
	国際取引法特論	
	国際取引法演習	
知的財産法特論Ⅰ	大友 信秀	
知的財産法演習Ⅰ		

科目区分	授業科目	担当教員
民事法学プログラム 選択必修科目	知的財産法特論Ⅱ	大友 信秀
	知的財産法演習Ⅱ	
政治学プログラム 選択必修科目	公共政策論特論Ⅰ	木村 高宏
	公共政策論演習Ⅰ	
	公共政策論特論Ⅱ	
	公共政策論演習Ⅱ	
	政治社会学特論Ⅰ	西村 茂
	政治社会学演習Ⅰ	
	政治社会学特論Ⅱ	
	政治社会学演習Ⅱ	
	政策過程論特論Ⅰ	西岡 晋
	政策過程論演習Ⅰ	
	政策過程論特論Ⅱ	
	政策過程論演習Ⅱ	
	計量政治学特論Ⅰ	岡田 浩
	計量政治学演習Ⅰ	
	計量政治学特論Ⅱ	
	計量政治学演習Ⅱ	
	政治思想史特論Ⅰ	仲正 昌樹
	政治思想史演習Ⅰ	
	政治思想史特論Ⅱ	
	政治思想史演習Ⅱ	
政治コミュニケーション論特論Ⅰ	山本 竜大	
政治コミュニケーション論演習Ⅰ		
政治コミュニケーション論特論Ⅱ		
政治コミュニケーション論演習Ⅱ		
研究会科目 (選択必修科目)	基礎法研究会Ⅰ	基礎法学部門全教員
	基礎法研究会Ⅱ	
	公法研究会Ⅰ	公法学・社会学部門全教員
	公法研究会Ⅱ	
	民事法研究会Ⅰ	民事法学部門全教員
	民事法研究会Ⅱ	
	公共システム論研究会Ⅰ	政治学部門全教員
	公共システム論研究会Ⅱ	
選択科目	環境政策特論	(大野 智彦)
	福祉政策特論	(棟居 徳子)
	国際関係特論Ⅰ	(勝間田 弘)
	国際政治史(東洋)特論Ⅰ	(宋 安鍾)
	国際政治史(西洋)特論Ⅰ	(佐藤 尚平)
	比較政治学特論Ⅰ	(ビートン・アンドリュウ)
	アジア政治特論Ⅰ	
	公法特講Ⅰ	
	公法特講Ⅱ	
	刑事法特講Ⅰ	
	刑事法特講Ⅱ	
	民事法特講Ⅰ	
	民事法特講Ⅱ	

注1 ()を付した教員は他専攻専任であり、法学・政治学専攻院生の指導教員にはなれません。

2 特講は開講しないことがあります。

(3) 経済学専攻

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員	
	専攻共通科目	論文指導Ⅰ	指導教員	
		論文指導Ⅱ	指導教員	
		論文指導Ⅲ	指導教員	
		ミクロ経済学特論 a	前田 隆	
		マクロ経済学特論 a	池下研一郎	
		応用計量経済学特論 a		
		プロジェクト研究	経済学専攻教員	
		総合演習Ⅰ	経済学専攻教員	
		総合演習Ⅱ	経済学専攻教員	
		インターンシップ	経済学専攻教員	
		基礎講義A	※	
		基礎講義B	※	
		基礎講義C	※	
		基礎講義D	※	
		経済学特別講義A		
		経済学特別講義B		
		経済学特別講義C		
		経済学特別講義D		
		経済理論・政策コース	専門基礎科目	現代経済理論特論 a
現代経済理論特論 b				
ミクロ経済学特論 b	前田 隆			
マクロ経済学特論 b	地下研一郎			
経済統計学特論 a	星野 伸明			
経済統計学特論 b				
金融経済特論a	塩谷 雅弘			
金融経済特論b				
金融制度特論 a	加藤 峰弘			
金融制度特論 b				
地域経済特論 a	佐無田 光			
地域経済特論 b				
地方財政特論 a	武田 公子			
地方財政特論 b				
社会資本特論 a	碓山 洋			
社会資本特論 b				
生活経済特論 a	杉橋やよい			
生活経済特論 b				
社会保障特論 a	(横山 壽一)			
社会保障特論 b				
福祉スポーツ健康社会特論 a	奥田 睦子			
福祉スポーツ健康社会特論 b				
社会福祉学特論	(森山 治)			
社会福祉学方法特論				
社会政策特論	(小澤 裕香)			
労働政策特論				
環境経済特論 a	市原あかね			
環境経済特論 b				
専門応用科目	現代経済理論演習 a			瀬尾 崇
	現代経済理論演習 b			

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
経済理論・政策コース	専門応用科目	ミクロ経済学演習 a	前田 隆
		ミクロ経済学演習 b	
		マクロ経済学演習 a	池下研一郎
		マクロ経済学演習 b	
		経済統計学演習 a	星野 申明
		経済統計学演習 b	
		金融経済論演習 a	塩谷 雅弘
		金融経済論演習 b	
		金融制度論演習 a	加藤 峰弘
		金融制度論演習 b	
		地域経済論演習 a	佐無田 光
		地域経済論演習 b	
		地方財政論演習 a	武田 公子
		地方財政論演習 b	
		社会資本論演習 a	碓山 洋
		社会資本論演習 b	
		生活経済論演習 a	杉橋やよい
		生活経済論演習 b	
		社会保障論演習 a	(横山 壽一)
		社会保障論演習 b	
		福祉スポーツ健康社会論演習 a	奥田 睦子
		福祉スポーツ健康社会論演習 b	
		社会福祉学演習 a	(森山 治)
		社会福祉学演習 b	
		社会政策論演習 a	(小澤 裕香)
		社会政策論演習 b	
		環境経済論演習 a	市原あかね
		環境経済論演習 b	
		北陸地域経済学講義	佐無田 光 碓山 洋
		国際社会・経済コース	専門基礎科目
社会思想史特論 b			
比較経済体制特論 a	堀林 巧		
比較経済体制特論 b			
国際金融特論 a	佐藤 秀樹		
国際金融特論 b			
世界経済特論 a	正木 響		
世界経済特論 b			
国際公共経済特論 a	吉居 史子		
国際公共経済特論 b			
日本経済史特論 a	小林 信介		
日本経済史特論 b			
アジア経済史特論 a	(弁納 才一)		
アジア経済史特論 b			
西洋経済史特論 a	中島 健二		
西洋経済史特論 b			
ヨーロッパ経済特論 a			
ヨーロッパ経済特論 b			
東アジア社会情報特論 a	(南 相環)		
東アジア社会情報特論 b			

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員	
国際社会・経済コース	専門基礎科目	対照社会言語学特論 a	(西嶋 義憲)	
		対照社会言語学特論 b		
		環日本海地域特論 a	(鶴園 裕)	
		環日本海地域特論 b		
	専門応用科目	社会思想史演習 a	野村 眞理	
		社会思想史演習 b		
		比較経済体制論演習 a	堀林 巧	
		比較経済体制論演習 b		
		国際金融論演習 a	佐藤 秀樹	
		国際金融論演習 b		
		世界経済論演習 a	正木 響	
		世界経済論演習 b		
		国際公共経済論演習 a	吉居 史子	
		国際公共経済論演習 b		
		日本経済史演習 a	小林 信介	
		日本経済史演習 b		
		アジア経済史演習 a	(弁納 才一)	
		アジア経済史演習 b		
		西洋経済史演習 a	中島 健二	
		西洋経済史演習 b		
		ヨーロッパ経済論演習 a		
		ヨーロッパ経済論演習 b		
		東アジア社会情報論演習 a	(南 相璽)	
		東アジア社会情報論演習 b		
		対照社会言語学論演習 a	(西嶋 義憲)	
		対照社会言語学論演習 b		
		環日本海地域論演習 a	(鶴園 裕)	
		環日本海地域論演習 b		
	経営情報コース	専門基礎科目	経営管理特論 a	澤田 幹
			経営管理特論 b	
会計学原理特論 a			竹島 貞治	
会計学原理特論 b				
財務会計特論 a			佐藤 清和	
財務会計特論 b				
組織戦略特論 a			白石 弘幸	
組織戦略特論 b				
マーケティング特論 a			平田 透	
マーケティング特論 b				
生産システム特論 a			柳 在圭	
生産システム特論 b				
情報科学特論 a			寒河江雅彦	
情報科学特論 b				
ビジネスファイナンス特論 a			松浦 義昭	
ビジネスファイナンス特論 b				
専門応用科目			経営管理論演習 a	澤田 幹
			経営管理論演習 b	
		会計学原理演習 a	竹島 貞治	
		会計学原理演習 b		
		財務会計論演習 a	佐藤 清和	
		財務会計論演習 b		

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
経営情報コース	専門応用科目	組織戦略論演習 a	白石 弘幸
		組織戦略論演習 b	
		マーケティング論演習 a	平田 透
		マーケティング論演習 b	
		生産システム論演習 a	柳 在圭
		生産システム論演習 b	
		情報科学論演習 a	寒河江雅彦
		情報科学論演習 b	
		ビジネスファイナンス演習 a	松浦 義昭
		ビジネスファイナンス演習 b	
		北陸地域経済学講義	佐無田 光 碓山 洋

(注) 1 ()を付した教員は他専攻の専任教員ですので, 原則, 指導希望教員には指名できません。ただし, 理由により認める場合がありますので, 指導を希望する場合には, 事前に担当学務係までご相談ください。

2 専攻共通科目を一部変更する予定です。

3 ※の「基礎講義A～D」は, 短期在学型制度の学生の科目であり, それ以外の学生は履修できません。

(4) 地域創造学専攻

科目群	授業科目	担当教員
専攻共通科目	先端地域創造講義	地域創造学専攻教員
	論文指導Ⅰ	指導教員
	論文指導Ⅱ	指導教員
	論文指導Ⅲ	指導教員
	論文指導Ⅳ	指導教員
	基礎講義A	地域創造学専攻教員
	基礎講義B	地域創造学専攻教員
	基礎講義C	地域創造学専攻教員
	基礎講義D	地域創造学専攻教員
	地域フィールドワーク	指導教員
	課題型インターンシップ（長期）	地域創造学専攻教員
課題型インターンシップ（短期）	地域創造学専攻教員	
専門基礎科目	地域社会学特論	眞鍋 知子
	公共社会学特論	田邊 浩
	社会政策特論	小澤 裕香
	社会保障特論	横山 壽一
	社会福祉学特論	森山 治
	福祉政策特論	棟居 徳子
	医療社会学特論	高橋 涼子
	ミクロ経済学特論	(前田 隆)
	地域経済学特論	(佐無田 光)
	北陸地域経済学講義	(碓山 洋)
	環境経済特論	(市原あかね)
	環境教育特論	香坂 玲
	環境政策特論	大野 智彦
	地域社会と法特論	(石川多加子)
	地域政策特論	(神谷 浩夫)
	地域づくり特論	(松下 重雄)
	地域居住学特論	山岸 雅子
	文化動態論	(鏡味 治也)
	人文地理学特論A	伊藤 悟
	人文地理学特論B	林 紀代美
	自然地理学特論	青木 賢人
	地域農業環境学特論	
	スポーツ社会学特論	佐川 哲也
	スポーツ経営学特論	藤谷かおる
	福祉スポーツ健康社会特論	(奥田 睦子)
	健康増進科学特論	増田 和実
	健康体力学特論	
	健康栄養学特論	寺沢なお子
健康教育学特論	岩田 英樹	
専門展開科目	現代社会特論	田邊 浩
	現代コミュニティ特論	眞鍋 知子
	生活保障システム特論	横山 壽一
	福祉社会とジェンダー	高橋 涼子
	社会福祉方法特論	森山 治
	健康と人権	棟居 徳子
	労働政策特論	小澤 裕香
	地域・個人・法特論	(石川多加子)

科目群	授業科目	担当教員
専門展開科目	地域人口学特論	(神谷 浩夫)
	地域社会動態特論	(西本 陽一)
	地理情報学特論	伊藤 悟
	地域資源活用特論	林 紀代美
	地域農業生産技術特論	
	地域基盤安全評価特論	(佐々木敏彦)
	自然環境特論	青木 賢人
	環境経済政策特論	(市原あかね)
	環境思想特論	大野 智彦
	環境コミュニケーション特論	香坂 玲
	ユニバーサルデザイン特論	(黒堀 利夫)
	生活科学特論	(杉橋やよい)
	住生活学特論	山岸 雅子
	地方財政特論	(武田 公子)
	社会資本特論	(碓山 洋)
	NPO運営特論	(松下 重雄)
	生涯学習特論	(浅野 秀重)
	スポーツ政策特論	佐川 哲也
	スポーツマーケティング特論	藤谷かおる
	福祉スポーツ健康政策特論	(奥田 睦子)
	運動適応科学特論	増田 和実
	健康体力評価特論	
	食品機能学特論	寺沢なお子
健康行動学特論	岩田 英樹	
文化人類学演習	(鏡味 治也)	
課題研究科目	地域調査・分析研究	伊藤 悟 山岸 雅子 眞鍋 知子
	社会福祉調査研究	高橋 涼子 眞鍋 知子 田邊 浩
	社会福祉基礎研究	森山 治
	社会福祉制度・政策研究	森山 治 横山 壽一 棟居 徳子 小澤 裕香
	福祉国家論研究	横山 壽一 田邊 浩
	地域政策研究	(神谷 浩夫) (松下 重雄)
	地域行政研究	(石川多加子)
	地域農業生産研究	
	地域環境研究	青木 賢人 林 紀代美
	地域環境経済論研究	(市原あかね)
	地域資源研究	香坂 玲
	地域スポーツクラブ論研究	佐川 哲也 (奥田 睦子)

科目群	授業科目	担当教員
課題研究科目	地域健康評価研究	岩田 英樹 藤谷かおる
	運動と健康増進研究	増田 和実 寺沢なお子
	文化人類学研究	(鏡味 治也)

(注) ()を付した教員は他専攻の専任教員ですので、地域創造学専攻の指導教員には指名できません。

(5) 国際学専攻

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
	専攻共通科目	基礎講義Ⅰ (国際関係特論Ⅰ)	勝間田 弘
		基礎講義Ⅱ (※比較政治学特論Ⅰ)	ビートン・アンドリュー
		基礎講義Ⅲ (アジア政治特論Ⅰ)	古泉 達矢
		基礎講義Ⅳ (アメリカ文化表象特論Ⅰ)	
		基礎講義Ⅴ (※イギリス研究特論Ⅰ)	
		基礎講義Ⅵ (フランス語圏特論Ⅰ)	粕谷 雄一
		基礎講義Ⅶ (ドイツ語圏特論Ⅰ)	志村 恵
		基礎講義Ⅷ (※International RelationsⅠ)	勝間田 弘
		基礎講義Ⅸ (アメリカ研究特論)	アベ・デイヴィッド
		論文指導Ⅰ	指導教員
		論文指導Ⅱ	指導教員
		論文指導Ⅲ	指導教員
		インターンシップ	国際学専攻教員
		海外調査研究Ⅰ	国際学専攻教員
		海外調査研究Ⅱ	国際学専攻教員
		国際関係・地域研究コース	専門基礎科目
国際政治史 (東洋) 特論Ⅰ	宋 安鍾		
国際政治史 (東洋) 特論Ⅱ			
国際政治史 (西洋) 特論Ⅰ	佐藤 尚平		
国際政治史 (西洋) 特論Ⅱ			
※比較政治学特論Ⅱ	ビートン・アンドリュー		
西洋経済史特論Ⅰ	(中島 健二)		
西洋経済史特論Ⅱ			
アジア政治特論Ⅱ	古泉 達矢		
アメリカ研究特論Ⅱ	アベ・デイヴィッド		
アメリカ文化表象特論Ⅱ			
アメリカ文化批評特論Ⅰ	小原 文衛		
アメリカ文化批評特論Ⅱ			
※環境表象研究特論Ⅰ	結城 正美		
※環境表象研究特論Ⅱ			
※American English: Using the Language Naturally for Study and Communication	ビントリフ・ジョン		
英語児童文学研究特論Ⅰ	大藪 加奈		
英語児童文学研究特論Ⅱ			
※ディアスポラ研究特論Ⅰ			
※ディアスポラ研究特論Ⅱ			
※イギリス研究特論Ⅱ			
米英研究特論Ⅰ	佐藤 尚平		
米英研究特論Ⅱ			
環日本海地域特論Ⅰ	鶴園 裕		
環日本海地域特論Ⅱ			
東アジア地域研究特論Ⅰ	古畑 徹		
東アジア地域研究特論Ⅱ			
東アジア社会情報特論Ⅰ	南 相環		
東アジア社会情報特論Ⅱ			
アジア経済史特論Ⅰ	弁納 才一		
アジア経済史特論Ⅱ			
中国語圏特論Ⅰ	李 鐸		
中国語圏特論Ⅱ			

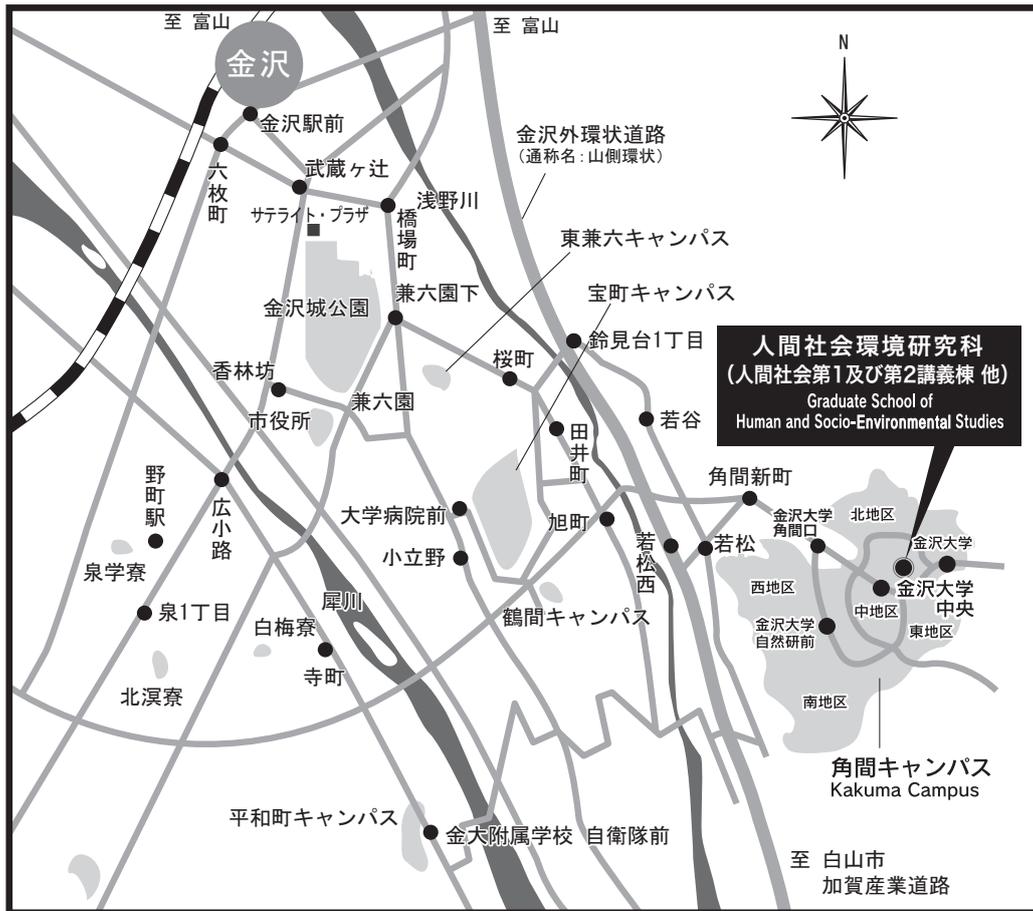
コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員	
国際関係・地域研究コース	専門基礎科目	アジア研究特論Ⅰ		
		アジア研究特論Ⅱ		
		フランス語圏特論Ⅱ	粕谷 雄一	
		ドイツ語圏特論Ⅱ	志村 恵	
		ドイツ語圏特論Ⅲ	ラントハーゲ・ザビーネ	
		ドイツ語圏特論Ⅳ		
		ヨーロッパ研究特論Ⅰ	石黒 盛久*	
		ヨーロッパ研究特論Ⅱ		
		ヨーロッパ研究特論Ⅲ	粕谷 雄一	
		ヨーロッパ研究特論Ⅳ		
		翻訳序説Ⅰ		
		翻訳序説Ⅱ		
		同時通訳入門Ⅰ		
		同時通訳入門Ⅱ		
		地球環境論特論Ⅰ	塚脇 真二	
		地球環境論特論Ⅱ		
		※社会言語学特論Ⅰ	根本 浩行	
		※社会言語学特論Ⅱ		
		対照社会言語学特論Ⅰ	西嶋 義憲	
		対照社会言語学特論Ⅱ		
		※比較文化研究Ⅰ	(アートル・ジョン)	
		※比較文化研究Ⅱ		
		※History of International PoliticsⅠ	佐藤 尚平	
		※American PoliticsⅠ	ビートン・アンドリユー	
		※Asian PoliticsⅠ	古泉 達矢	
		※International RelationsⅡ	フォックス・セナン	
		専門応用科目	国際関係演習Ⅰ	勝間田 弘
			国際関係演習Ⅱ	
			国際政治史(東洋)演習Ⅰ	宋 安鍾
	国際政治史(東洋)演習Ⅱ			
	国際政治史(西洋)演習Ⅰ		佐藤 尚平	
	国際政治史(西洋)演習Ⅱ			
	※比較政治学演習Ⅰ		ビートン・アンドリユー	
	※比較政治学演習Ⅱ			
	西洋経済史演習Ⅰ		(中島 健二)	
	西洋経済史演習Ⅱ			
	アジア政治演習Ⅰ		古泉 達矢	
	アジア政治演習Ⅱ			
	アメリカ文化表象演習Ⅰ		小原 文衛	
	アメリカ文化表象演習Ⅱ			
	アメリカ文化批評演習Ⅰ			
	アメリカ文化批評演習Ⅱ			
	環境表象研究演習Ⅰ		結城 正美	
	環境表象研究演習Ⅱ			
	英語児童文学研究演習Ⅰ		大藪 加奈	
	英語児童文学研究演習Ⅱ			
	ディアスポラ研究演習Ⅰ			
ディアスポラ研究演習Ⅱ				
イギリス研究演習Ⅰ				
イギリス研究演習Ⅱ				

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
国際関係・地域研究コース	専門応用科目	比較文化論演習Ⅰ	(アートル・ジョン)
		比較文化論演習Ⅱ	
		米英研究演習Ⅰ	
		米英研究演習Ⅱ	
		環日本海地域演習Ⅰ	鶴園 裕
		環日本海地域演習Ⅱ	
		東アジア地域研究演習Ⅰ	古畑 徹
		東アジア地域研究演習Ⅱ	
		東アジア社会情報論演習Ⅰ	南 相環
		東アジア社会情報論演習Ⅱ	
		アジア経済史演習Ⅰ	弁納 オー
		アジア経済史演習Ⅱ	
		中国語圏演習Ⅰ	李 鐸
		中国語圏演習Ⅱ	
		アジア研究演習Ⅰ	古畑 徹
		アジア研究演習Ⅱ	
		フランス語圏演習Ⅰ	粕谷 雄一
		フランス語圏演習Ⅱ	
		ドイツ語圏演習Ⅰ	志村 恵
		ドイツ語圏演習Ⅱ	
		ドイツ語圏演習Ⅲ	ラントハーゲ・ザビーネ
		ドイツ語圏演習Ⅳ	
		ヨーロッパ研究演習Ⅰ	石黒 盛久*
		ヨーロッパ研究演習Ⅱ	
		ヨーロッパ研究演習Ⅲ	粕谷 雄一
		ヨーロッパ研究演習Ⅳ	
		翻訳演習Ⅰ	
		翻訳演習Ⅱ	
		同時通訳演習Ⅰ	
		同時通訳演習Ⅱ	
		地球環境論演習Ⅰ	塚脇 真二
		地球環境論演習Ⅱ	
		社会言語学演習Ⅰ	根本 浩行
		社会言語学演習Ⅱ	
		対照社会言語学演習Ⅰ	西嶋 義憲
		対照社会言語学演習Ⅱ	
		※History of International PoliticsⅡ	佐藤 尚平
		※American PoliticsⅡ	ビートン・アンドリュウ
		※Asian PoliticsⅡ	古泉 達矢
		※International RelationⅢ	勝間田 弘
		※International RelationⅣ	フォックス・セナン
		※北米表象文化演習Ⅰ	
※北米表象文化演習Ⅱ			
※精神分析批評演習Ⅰ	小原 文衛		
※精神分析批評演習Ⅱ			
環境言説研究演習Ⅰ	結城 正美		
環境言説研究演習Ⅱ			
比較文化研究演習Ⅰ	大藪 加奈		
比較文化研究演習Ⅱ			

コース, プログラム等	科目群	授業科目	担当教員
日本語教育・日本文化研究コース	専門基礎科目	日本語教育学特論Ⅰ	松田真希子
		日本語教育学特論Ⅱ	
		日本語教授法研究特論Ⅰ	深澤のぞみ
		日本語教授法研究特論Ⅱ	
		日本語教授法研究特論Ⅲ	
		日本語教授法研究特論Ⅳ	
		日本語学特論Ⅰ	(高山 知明)
		日本語学特論Ⅱ	
		現代日本語学特論Ⅰ	加藤 和夫
		現代日本語学特論Ⅱ	
		現代日本語学特論Ⅲ	
		日本文化研究特論Ⅰ	清水 邦彦
		日本文化研究特論Ⅱ	
		対照社会言語学特論Ⅰ	西嶋 義憲
		対照社会言語学特論Ⅱ	
		日本学研究特論Ⅰ	山本 洋
		日本学研究特論Ⅱ	
		日本近現代史研究特論Ⅰ	(能川 泰治)
		日本近現代史研究特論Ⅱ	
		日本近代文学特論	(杉山 欣也)
	専門応用科目	日本語教育学演習Ⅰ	深川 美帆
		日本語教育学演習Ⅱ	
		日本語教授法研究演習Ⅰ	太田 亨
		日本語教授法研究演習Ⅱ	
		日本語教授法研究演習Ⅲ	深澤のぞみ
		日本語教授法研究演習Ⅳ	
		日本語学演習Ⅰ	(高山 知明)
		日本語学演習Ⅱ	
		現代日本語学演習Ⅰ	加藤 和夫
		現代日本語学演習Ⅱ	
		社会言語学実習Ⅰ	
		社会言語学実習Ⅱ	
社会言語学演習Ⅰ		根本 浩行	
社会言語学演習Ⅱ			
対照社会言語学演習Ⅰ		西嶋 義憲	
対照社会言語学演習Ⅱ			
日本文化研究演習Ⅰ		清水 邦彦	
日本文化研究演習Ⅱ			

- (注) 1 ()を付した教員は他専攻の専任教員ですので、原則、指導希望教員には指名できません。ただし、理由により認める場合がありますので、指導を希望する場合には、事前に担当学務係までご相談ください。
- 2 *を付した教員は他研究科の専任教員ですので、指導教員には指名できません。
- 3 ※を付した科目は英語による授業科目です。
- 4 担当教員欄が空欄になっている科目は、担当教員の退職等で未定の科目あるいは非常勤講師担当科目です。

金沢大学大学院人間社会環境研究科入学試験場案内略図



金沢大学大学院人間社会環境研究科(人間社会第1及び第2講義棟 他)へのアクセス

【路線バス利用】

J R 金沢駅東口バスターミナルから北鉄バス「金沢大学 (角間)」行き乗車, 「金沢大学 (終点)」下車, 徒歩 1 分 (J R 金沢駅から約35分)

【タクシー利用】

J R 金沢駅東口から約20分

【小松空港まで航空機を利用】

小松空港から北鉄バス「金沢駅西口 (市内経由)」行き乗車, 「香林坊 (アトリオ前)」下車 (乗換え) (所要約 1 時間)

「香林坊」から「金沢大学 (角間)」行き乗車, 「金沢大学 (終点)」下車, 徒歩 1 分

金沢大学大学院人間社会環境研究科

【問い合わせ先】

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学人間社会系事務部学生課学務係

電話 : 076-264-5601 (人文学専攻)
076-264-5456 (法学・政治学専攻)
076-264-5457 (経済学専攻)
076-264-5603 (地域創造学専攻)
076-264-5455 (国際学専攻)

E-mail : n-jkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp (人文学専攻, 国際学専攻)
n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp (法学・政治学専攻, 経済学専攻)
n-kcgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp (地域創造学専攻)

金沢大学 URL <http://www.kanazawa-u.ac.jp>